

第一編

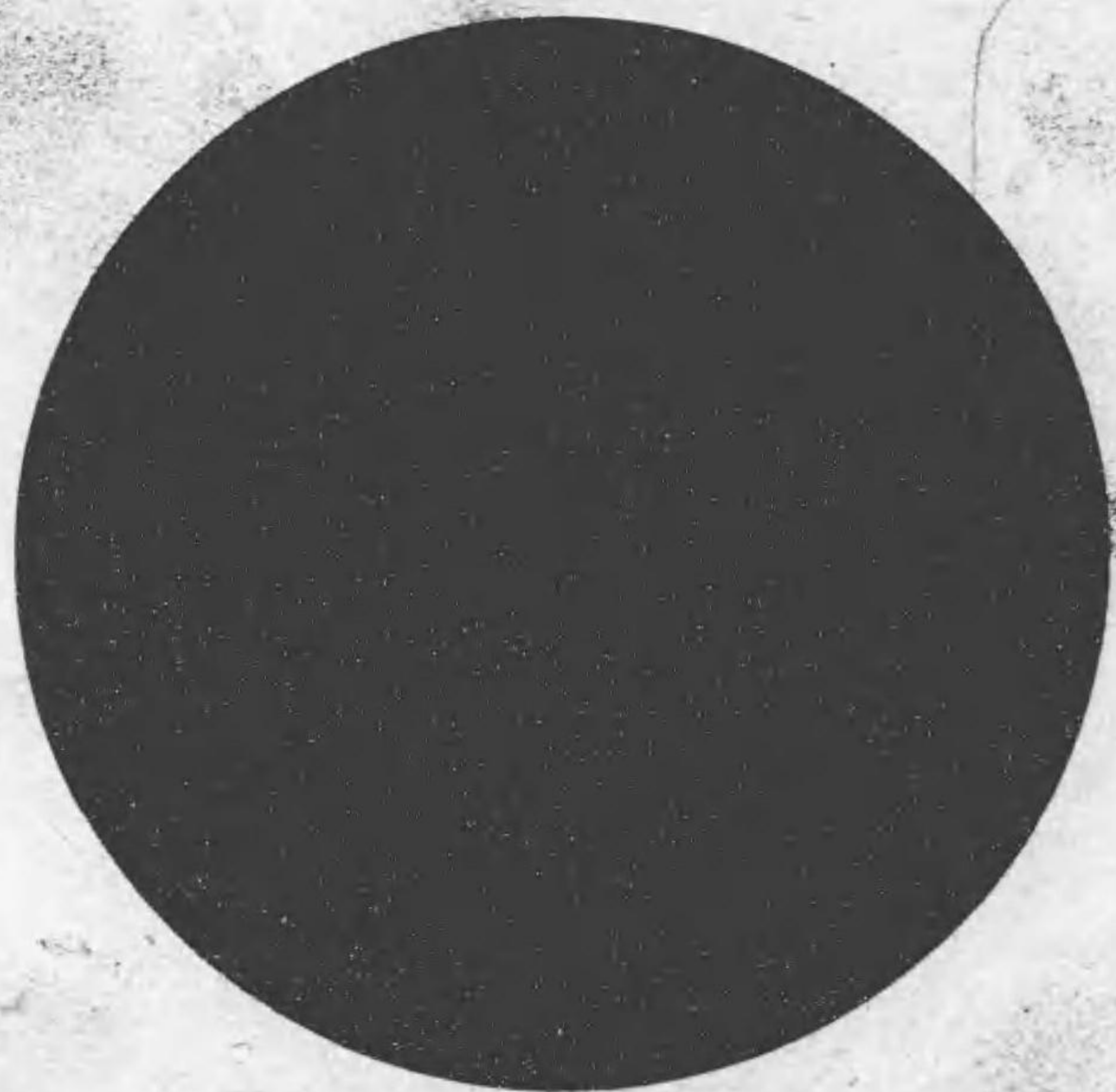
島同胞銃後美談

特240

40

×
複写

納
本



會和協央中 團財 人法 

輯七第書叢和協



始



特240
40

報



國

吳昌碩書

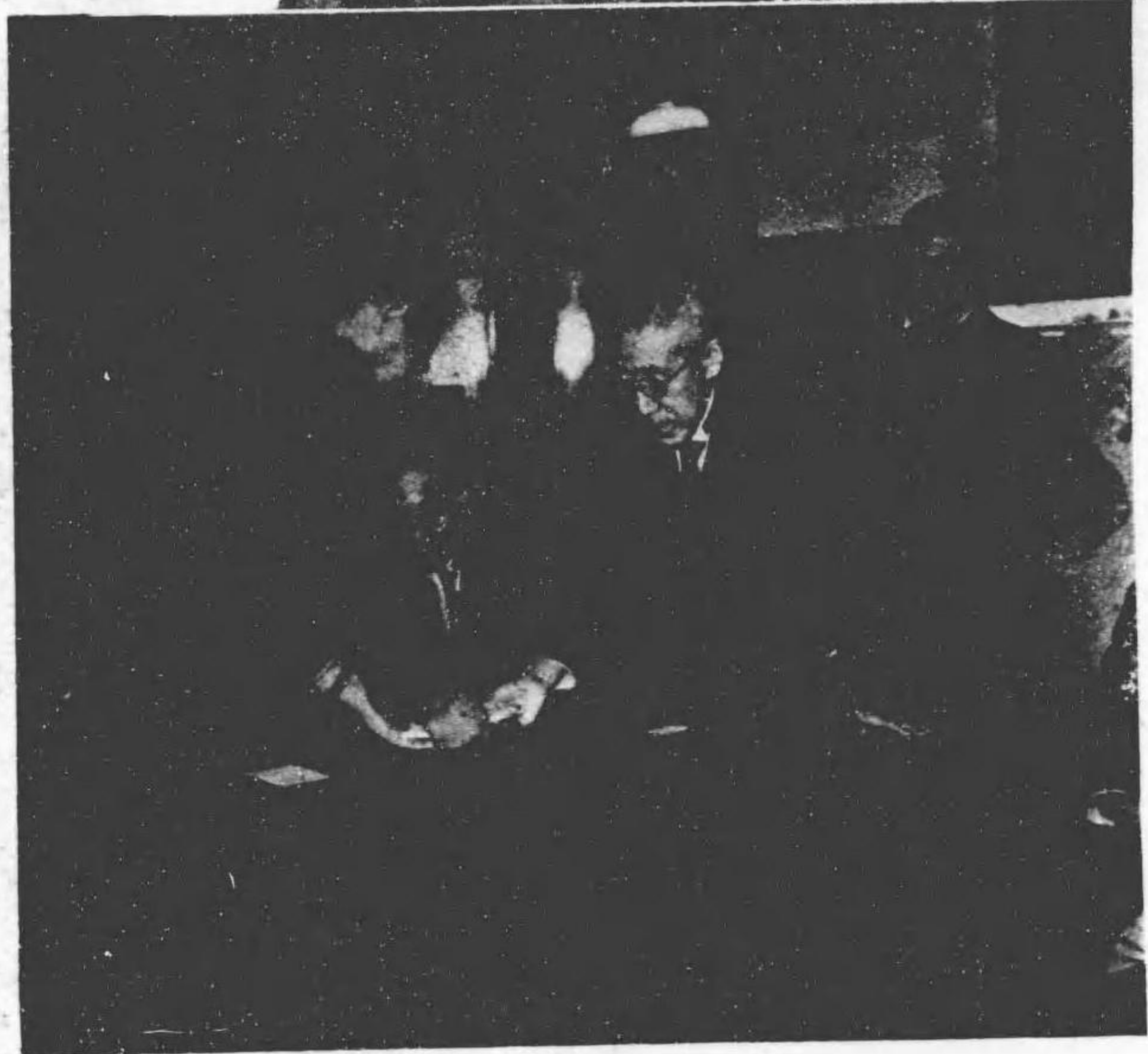


内地住朝鮮人の赤誠



(上圖は陸軍省へ、下圖は海軍省へ献金される關屋理事長閣下)

去る三月十九日内地在住朝鮮同胞の赤誠(金五十萬圓)は本會關屋理事長の手より陸、海軍部當局へ献金された。



はしがき

今次事變を契機に澎湃として起つた半島同胞の愛國心は、嘗に半島、内地に止まらず、

滿洲支那を始め有くも半島同胞の在る所或は献金に、皇軍慰問品釀出に將又出征軍人慰問、

或は遺家族勤勞奉仕に内地同胞と渾然一體となつて展開されて居る所であり涙ぐま

國の赤誠が生む美談佳話は限り無く綴られ盡る所を知らない。

本會に於ては正統元二千六百年の佳き年を記念し併せて盛上る此の愛國の赤心を更に

各道府縣協和會と共に軍用機「協和號」献納運動を企劃し之れが資金應募を全國協

和會員に請ひて、會員諸士のはち切れん許りの愛國心は本企劃をして豫期以上の成果を

收めしめ應募總計金五十三萬圓の老成なる數に達した。

本書は承來る五月四日、五日を期し軍用機協和號の命名式が羽田原頭に於て舉行されるに當り、これを記念する爲に、地方協和會の報告に基き匆々の間に編輯したるものにし



て、固より遍く事例を涉獵せるものに非ず、特に献金、勤勞奉仕、銃後諸活動等は事變以來協和會員中廣く普及徹底せる所にして、本書に輯録せるものは、其の二三を拾つて例示するに過ぎざるのみならず、内容亦不整理なるを免れない。

又本書中美事善行の主人公にして内地式氏名のもの多數に上れるも、これは朝鮮民事令改正に依り創氏改名せるものにして皆朝鮮出身の同胞なることを念の爲め附記しておく。一言以て刊行の辭とする。

昭和十六年五月一日

財團中央協和會
法人

銃後美談 (第一編) 目次

盗れる赤誠	奈良縣	一
床しき献金	岡山縣	一
一日一錢献金運動	岡山縣	二
皇國臣民の喜び	愛知縣	三
興亞奉公日に	東京府	四
法要を取止めて	同	四
夫婦揃つて	鹿兒島縣	四
丸刈して	愛知縣	五
量より質	同	五
血書の献金	和歌山縣	六
一家揃つて	同	六
貧者の赤誠	京都府	七

國防に備へて……………	山口	二
紀元二千六百年記念として……………	愛媛	八
洩れなく應募せん……………	北海道	九
無言の献金……………	大阪府	一〇
四兒を抱へて……………	同	一一
竹筒一錢貯金……………	同	一二
献金三千圓……………	福岡縣	一三
煙草代を恤兵金に……………	福岡縣	一三
美談が美談を生む……………	神奈川県	一三
お湯錢を貯めて……………	東京府	一五
赤誠凝りて……………	長野縣	一五
皇國の婦人として……………	兵庫縣	一六
一日五錢貯金……………	同	一八
銃後婦人の赤誠……………	同	一八
禁煙して……………	同	一八
皇軍の勞苦を偲び……………	同	一九

小遣錢を節約して……………	大阪府	一九
禁酒して……………	同	二〇
生活費を割きて……………	奈良縣	二〇
志願兵の父として……………	大阪府	二〇
産業戰士の赤心(一)……………	福岡縣	二二
同(二)……………	同	二二
同(三)……………	同	二三
同(四)……………	同	二三
皇軍勇士を歡送す……………	長崎縣	二三
皆擧つて……………	山梨縣	二三
皇軍傷兵に感謝して……………	山梨縣	二三
燃ゆる夫婦の赤心……………	同	二四
生活費を節約して(一)……………	岐阜縣	二五
同(二)……………	同	二五
内鮮人情の齎した赤誠……………	大阪府	二六
家族擧つて發品回收……………	青森縣	二六

貯金箱が献金箱となる.....大 阪 府.....七
 生活費の残金を.....同 本 縣.....七
 アサリ貝を賣つて献金.....熊 本 縣.....六
 労働賃金を.....同 本 縣.....六

遺家族援護

銃後は堅し.....大 阪 府.....元
 英 靈 弔 慰.....群 馬 縣.....三
 職 域 奉 公.....福 岡 縣.....三
 戦地でも喜ばん.....群 馬 縣.....三
 熱意を込めて.....京 都 府.....三
 出征の主家を助けて.....大 阪 府.....三
 守れ銃後の家庭を.....熊 本 縣.....三
 赤誠は続けらる.....奈 良 縣.....三
 美しい内鮮一體.....東 京 府.....七

銃後の守り

農繁期を扶けて.....香 川 縣.....元
 出征遺家族慰問.....東 京 府.....元
 學つて守る.....滋 賀 縣.....元
 勇士の遺家族は我等の手で.....山 口 縣.....四

或る夫婦.....神 奈 川 縣.....四
 國旗掲揚臺寄附.....福 岡 縣.....四
 青年團旗を寄附.....群 馬 縣.....四
 内 鮮 一 體.....大 阪 府.....四
 情は人のためならず.....三 重 縣.....四
 初ちぎりの林檎.....奈 良 縣.....四
 兄弟の契り.....神 奈 川 縣.....四
 よき日本人.....富 山 縣.....四
 血書の志願.....山 口 縣.....五

輸血奉仕	廣島縣	三
率先窮行	青森縣	三
學務部長が名付親	京都府	三
朝鮮式食器不要なり	和歌山縣	三
半島爺さんが休閑地を開墾	同	三
警防團員として身を捧ぐ	埼玉縣	三
向上一路	群馬縣	三
貧前の一燈	大阪府	三
血書の日の丸	福岡縣	三
御眞影を守りて	愛知縣	三
債券購入	山口縣	三
白衣勇士慰問	群馬縣	三
神木献納	同	三
この事實を観よ	福岡縣	三
防空の守りは固し	大阪府	三
防空訓練美談	富山縣	三

一つのともしび	廣島縣	六
虎造を招く	栃木縣	六
神社修築費に	福岡縣	六
皇軍武運長久祈願全國自轉車巡拜	大阪府	六
白衣の勇士を神都へ招待	三重縣	六
決意は固し	和歌山縣	七
勤勞奉仕	埼玉縣	七
互に扶けつゝ國家のために	福岡縣	七
我等も日本人なり	北海道	七
産業戦士の責重し	福岡縣	七
戦線の勇士と共に	福岡縣	七
力を合せて	愛媛縣	七
日本人としての務め	山梨縣	七
武運長久祈願	長野縣	七
護國神社造営資金	秋田縣	七
刑務所の中より	東京府	七

優しき赤誠

可憐、少年の祈願.....	京都府.....九
軍國少女の姿.....	東京都府.....九
少年の眞心.....	愛知県縣.....一〇
前線の勇士様へ.....	富山縣縣.....一一
銃後協和女性の鑑.....	埼玉縣縣.....一二
十 錢 貯 金.....	京都府府.....一三
銃後協和婦人の歩は固し.....	埼玉縣縣.....一三
幼年の献金.....	和歌山縣縣.....一五
芽ばゆる赤心.....	同.....一六
少年の血書.....	同.....一六
半島大和撫子の活動.....	同.....一七
少年協和の話.....	愛知県縣.....一七
遺家族を守る婦人.....	京都府府.....一八
勤 勞 慰 問.....	東京都府.....一九

獻納美談

溢れる赤誠

奈良縣橿原郡箸尾町大字萱野、李來玉(三二)事川村一君郎は、内地渡航以來廢品回收を業とし、傍ら婦女子の内職として製繩業を營業して居りました。事變勃發以來製繩業を本業とし、〇〇〇〇〇の指定工場となり現在に至りましたが、昭和十三年四月 皇后陛下御差遣 東伏見宮大妃殿下御來縣の砌、縣下軍事援護事業に關する長官官上書の内に「李來玉なる者は帝國軍人會有効會員に加入し、昨年より毎年金五十圓宛を向ふ十ヶ年間に亘り合計金五百圓也を納付することに致しましたのみならず、國防費へ七十圓、同町(箸尾町)軍事援護會へ五十圓、同町國防婦人會へ十圓を寄附し、尙同人の妻は現に同町國防婦人會班長として銃後奉仕に活動致しつつあります」と見えます様に、銃後の活動に盡瘁し、尙又昭和十六年三月四日には、内地渡航十周年記念として金壹千圓也を軍人援護會奈良支部へ寄附致しました。その他、出征遺家族の慰問、第一線に慰問品發送、自費を以て人を雇入れ、農業期には勤勞奉仕に差向ける等その篤行誠に賞すべきものがあります。

床しき献金

奈良縣生駒町大字生駒、文龍成(四〇)君は、昭和十五年十一月二十日、日本男子として戦線で奉公出来ない私

は残念でなりません。せめて汗と膏で蓄へた僅ですがと金貳拾圓也を聯隊區司令部へ献金した。(献金品の事例は各府縣協和會共に其數夥し)

一日一錢獻金

岡山縣玉野市玉、申洪錫(三七)君は、昭和三年來在住し夙に協和事業の先驅者となつて半島同胞の指導に當つてゐる者であるが支那事變勃發後大に感ずる所あり、昭和十三年一月より一日一錢貯金を實踐し來つたが輝く二千六百年を記念する爲に從來の一日一錢貯金を一日一錢献金とし、更に之れを内地在住百萬同胞に推し進め、將來は全國的運動たらしめんと着々同志の糾合に努めてゐる。

而してこの運動を永續化する爲には先づ自己が卒先實踐し以て一般會員の自發的參加を求めねばならぬとし、本年一月過去三ヶ年間の一日一錢貯金總額の献金手續を取ると共に、地元協和會宇野支會の輔導員會に謀り、左記趣意書を發表して一般同胞に呼びかけ、既に同支會を始め縣下各支會の賛同を得、目下着々本運動の實績を收めつゝありて各方面に多大の感動を與へてゐる。こゝに申洪錫君の一日一錢献金運動趣意書を掲げて見よう。

一日一錢献金運動趣意書

皇紀二千六百年を迎へ我々國民は一層の緊張を要し一億一心職域奉公を致さねばならぬ。百萬の内地在住同胞よ、我々は今こそ大君に一命を捧げ奉る秋である。

物事は總べて一より始むべきである、此處に輝く二千六百年を期し向ふ十ヶ年間一日一錢献金運動を起さんとす。

百萬同胞の一日一錢献金は驚く勿れ一日一萬圓に達し其のまゝ國防資材となり聖戰に御奉公することとなる。我等は皇國臣民なり斷乎本運動の貫徹を期す。百萬同胞の奮起を望む。

皇國臣民の喜び

「私達は毎日斯うして安穩なる生活の出来るのは偏に上 陛下の御仁愛と下忠勇なる皇軍將兵の賜である」と、深く感激し、名古屋市西區辻町字東辻榮七〇番地、金祈壽君は事變勃發と同時に附近半島人に對し銃後國民として爲すべきことは澤山あるが、吾々勞働者としては事變終了迄多少なりとも繼續して國防献金することが、責めたるもの務めであると説き、之に協力を求めたところ、皆之の趣旨に賛成し一人十錢乃至一圓を醸出し合計五圓を同年九月十六日に趣意書

「私共は朝鮮に生れて内地に居住していますが 天皇陛下の深き御恵みに浴する事を得まして日常楽しく働く事が出来るので誠に仕合せと存じて居ます。

今や日支事變で國民は兵籍にある男子は身命を抛つて出征されていますが遺憾乍ら私共は兵籍がありませんので、戰爭に参加御奉公する事が出来ません事を残念に存じます。私共微力ながら毎日僅かづゝでも、醸出して

事變中出来る丈け、繼續して國防恤兵基金の一端に、加へさせて戴きたいのでありますから、何卒微衷を諒せられ、御納め下さらん事を御願ひいたします」

を添へ第一回の献金を爲し爾來今日迄引續いて献金し、總額貳百餘圓に達したるが孰れも生計豊かならず貧しき中より小使を節約し心からなる献金を繼續し、而も尙今後事變終了する迄續行する決意を有し居るものなり。

興亞奉公日に

興亞奉公日に東京府協和會吾嬬支會補導員朴性在氏外五十九名は本年四月一日興亞奉公日に夫々各自夜間深更に至る迄勞動に従事し得たる收入金四拾一圓を陸軍省へ金拾圓を海軍省へ献金せり。

法要を取止めて

東京府協和會世田谷支會補導員股太根こと田中一郎君は、先日長女京子さん(三歳)を失つたがその七七忌に際し、當然法要を営むべきところを時局柄取止め、四月三日國防献金として金貳拾圓を献納した。

夫婦揃つて

鹿兒島縣鹿兒島市郡元町五〇八番地古物商郷炳探君(二八)は、昭和十五年六月二十四日鹿兒島警察署に出頭し、「内地に來り一入日本臣民としての有難さを痛感し、殊に今次のやうな重大な時局下に何等の不安もなく生活し得らるゝことは、大君の稜威と皇軍將兵の活躍の御蔭であり、戦地の勞苦を聞く度に涙を催す次第なり。自分は軍籍もなく戦線に身を捧げての御奉公は望み得られないので、せめて國防献金なりとして銃後の責を果し度思考し、幸ひ貯金も貳百餘圓となり毎月精勵せば生活に心配なき爲、妻と相談の上國防献金に百圓を持參致しました」と稱し金壹百圓を献金す。

丸刈して

名古屋市中村區采野町李三煥君外七名は、時局の重大なるに鑑み丸刈組を組織し、理髮代を節約貯蓄したる所金拾貳圓に達したるを以て昭和十五年九月廿四日献金せり。

量より質

愛知縣協和會布袋支部、張祥熙君外二十四名は、時局の重大なるを認識し、飯米を毎日一掴みづゝ節約し之を數ヶ月積み立て、金拾五圓六拾四錢に達したるを以て昭和十五年十二月二十日之を献金した。

血書の獻金

和歌山縣海草郡大崎村、趙遺腹君(二〇)は、昭和十四年七月勞働の爲め内地に渡航、現住所に於て農夫として雇はれ従事中之者であるが、今次事變に際し常に皇軍將兵の忠誠なる勞苦に感激し、報國貯金を決心し日常の冗費を節約貯金を勵行して來たが、客年七月事變記念日に至り和歌山聯隊區司令部を訪れ、

「私は半島人ですが心の中は日本人としての報國心に燃へて居ります。私は内地に渡つて來てから毎日戦地で戦つて居る兵隊さんの御勞苦を偲び、第一戦で戦つて居る氣持で働いて居ります。此の程から報國貯金を思ひ付き日給七拾錢の内から少しづつ貯へました。此の御金は誠に僅ですが第一線の兵隊さんに煙草の一本宛でも差上げて頂き度い。」

と申述べ、報國貯金と記した竹筒一個(參圓拾參錢在中)と血染の日の丸に報國大日本と血書したハンカチーフを添へ提出し係官並に一般に大きな感動を與へた。

一家揃つて

和歌山縣西牟婁郡田邊町、金永九(二六)君は古物營業を爲し、時局下廢品回收に精進して居る者であるが、常

に内地在住半島人の内地人に比し時局認識に疎き事を嘆き、機會有る毎に會員相互の自覺反省を叫び、會員の皇民觀念の昂揚に努めて來たが、最近内地より朝鮮に一時歸郷して來た友人より現在の朝鮮に於ける實情を詳しく聞き朝鮮に於ける同胞の眞劍味の有る愛國運動に感激一般會員に卒先して興亞奉公日を自分の一家の節約日と定め、一家揃つて銃後奉公の念を一層強くし節約を續けて來たるものにして客年十月一日興亞奉公日に所轄田邊警察署に赴き「誠に僅な御金ですが一家揃つて興亞奉公日に節約して貯へた御金です、どうか國防の一端に獻金させて頂き度い」と金拾貳圓を奇託した。其の後も尙此の節約を續けつゝ有り一般に大なる感動を與へ稱讚的となつて居る。

貧者の赤誠

京都市中京區壬生森前町に居住する宋海正君は性温厚にして、而も日常家庭生活の内地化に於て他の範となすに足る會員なるが、今次事變勃發するや、かゝる非常時局にも拘はらず、毎日平穩に生活出來るのは、上 陛下の御神徳の賜なると同時に、忠勇なる皇軍將士の奮闘の御蔭なりと厚く感謝し、自身は屑買業を営み、二名の子女を、學校に通學せしめ、生計可なり貧困なるにも拘はらず、事變發生以來、生活費を節約し毎月、日を定め、金參圓を國防費に獻金しつゝあり、此の赤誠は過般京都府知事より特に其の善行なるを認められ表彰された。

国防に備へて

山口支會に於ては會員の時局認識を深め、國策に協力せしめる目的の下に時局座談會を開催し、去る一月より現在迄管内十一ヶ所に於て支會長以下役職員が會員私宅に出張し、一回會員三十名乃至四十名を集合せしめ直接指導に乗り出した處、七回目の時局の座談會を本年三月八日夜管内山口市道祖町に於て開催中會員荒木奎錫尙君は(二三)

「自分は數日前朝鮮に歸り朝鮮の愛國運動に感激して再渡航したものであるが今又現時局の重要性を懇切に説明して載き吾々内地在住の半島人が如何に時局の認識に缺けて居るかをしみじみ感じて實に申譯ない氣がする自分は菓子屋の一職人であり、金の餘裕もないが、せめて此の金で国防献金として手續をして欲しい」と涙と共に現金五圓を即座に田村支會長に提出した。

紀元二千六百年記念として

宇和島市袋町の上田浩君は、昭和三年渡航以來玩具商を營み相當の業績を擧げつつあり。昭和十五年朝鮮人の氏設定並改名制度の公布せらるるや、直に本籍地に改名の手續を爲し、七月三十日許可の通報に接し大いに感銘

し其の記念として国防献金壹百圓也を市役所に寄託し、又紀元二千六百年記念として、昭和十五年十一月金壹百圓を醸出し慰問袋百個を作成の如き慰問文を同封市役所に寄託した。

皇國の兵隊さんありがたう。

聖戰四ヶ年の今日までも、神國の御稜威と無敵皇軍皆様の御蔭で、吾々銃後は敵の姿を見ることなく、千載一遇の紀元二千六百年式典も感涙と共に祝ひました。此の感謝感激の言葉は筆舌では盡せません。今や近衛閣下の決死的指導の宜敷を得て、國民は新體制に向ひ、世界に冠たる眞の日本精神に還元しつつあるものと確信し銃後も愈々健全です、どうぞ御安心下さいまして聖戰貫徹のため御奮闘あらんことを願ひます。

應て迎へる二千六百年を謹んで賀し奉ります。

二仲 慰問品中に「ゴムマリ」を加へましたことに就て一言申し上げます。原料は輸入品であり、重要な軍需ながら第二國民育成上必要を認め特免せられたものであります。今日斯る餘力ある祖國の姿を御目に掛けて、慰め度い意味であります。御暇の折は童心に還り、友邦の子供達と遊んで下さい。

洩れなく應募せん

北海道中川郡中川村寫坂一八〇、張永植(三八)君は、紀元二千六百年記念事業として、中央協和會提唱に係る兵器献納資金募集に際し、農繁期をも不顧所屬分會區域たる中川村、常盤村の兩村に亘り、山間の僻地を跋渉し

良く往復三十里の途を遠しとせず、募集に従事し、自ら拾貳圓を據出をなし、會員僅の七名にて六十圓を據出した。

無言の獻金

大阪市港區八幡屋松の町二丁目二〇五妙見湯こと松熊本次郎方雇人、李成安(二八)君は、昭和八年八月内地渡航以來肩書妙見湯に雇はれ、現在に至るものであるが同湯に雇はれて以來、経営主、三代交代したが、何れからも信頼を受け、且つ浴客よりの信望殊の外厚く、現経営主よりは之れが經營を一任せられて居る程であるが、昭和十二年春より同湯に女中として雇傭せられて居た内地人河内ナミ子さん(當二十年)と結婚兩人共に同湯に同居し、李君は日給一圓七十錢の外毎月三回の休日を通じて小遣錢として六圓を受け、妻ナミさんは月給二十圓を受け、毎月相當額の貯蓄を爲し三百圓餘の事變公債を購入する等、朝鮮人として賞讃するに價するものであるが、兩人は事變勃發以來節約を志し、之れを貯金箱に投入貯蓄し、本月十五日貯金箱二個金二十圓十九錢及煙草バット百五十個及敷島十個を獻金せる旨を記載せる手紙を添附し築港警察署受付係へ提出し、無言の儘立ち去つたので其の行爲者を探し出した處同君と判明したので其の行爲を賞揚し之れが獻金手續をとれり。

四兒を抱へて

大阪市此花區四貫島宮居町、中村誓(五四)さん二十五年前渡來しガラス工場に働き居たるが、大正十三年夫死亡し十六歳を頭に四兒を抱へて悲嘆に暮れながらも依然工場に働き其日を送つて來た。然しかくはならずと昭和四年知人の同情により金五拾圓を借り受け千鳥橋のたもとにさゝやかなる關東煮の屋臺店を出し、日夜精勵した甲斐あつて二男以下は全部中等學校に入れ大學迄進學させてゐる。平素隣人に内地化を説き自ら範を示し現在では立派なる飲食店を営み得るようになった。先般大阪府協和會館建設し五百圓を寄附し今又三年間積立百圓の貯金四口の満了を喜び現金百圓を加へ五百圓となし、折半して陸海軍部に各二百五十圓を獻納した。刻苦精勵寡婦の身を以て克く子女を教育し、多額の國防獻金をなすつゝあるのは銃後婦人として賞讃に値する。

竹筒一錢貯金

岸和田市下野町協和會指導員伊原文之助氏の朴妻庚純さん(三十)は内地渡航以來十二年を経て居り夫と共に内鮮同化の爲め、朝鮮婦人を指導してゐますが率先して國防婦人會に入會し、常に出征者歸還者のある際は見送り出迎へに出掛け近隣の朝鮮婦人十八名を國防婦人會に紹介入會の手續をなし、先般李玉殿下の御來岸の際も朝

鮮婦人を十五名引率して御迎へをなし、事變勃發以來一日一錢の献金を思ひ立ち竹筒を作り一日一錢の節約をなして蓄めて居たが九月一日の興亞奉公日に計算をした處十圓八十錢となつたので、本口岸和田支會へ國防献金の手續をなし内鮮人間の感激の的となつてゐる。

献金三千圓

今次事變勃發するや、銃後國民の愛國熱は頓に高潮し、赤誠溢るゝ國民の献金は日々増加の傾向にあるが、福岡縣小倉市日明町勞務供給業栗川清吉こと崔聖述君(三六)は大正十四年四月渡航以來内鮮協和の實踐者として活躍し、先輩として熱心に後輩朝鮮人の指導教化に當りつゝあるが、皇國臣民として誇を感じ皇軍出征將兵の勞苦に痛く感激を覚え、昨年七月二日父崔湛祚氏の還歴祝に當り新東亞建設の第一線に自ら活躍出來ざるを遺憾とし、微衷なりとて小倉市役所を訪れ、

小倉市保育事業費	金 貳千圓
銃後奉公會	金 五百圓
國防献金	金 五百圓

計三千圓を献金し銃後國民の心意氣を表し、關係方面は勿論一般人に多大の感銘を與へた。

煙草代を恤兵金に

事變發生以來、美しい大和心の現れとして、日々増加の一途を辿りつゝある献金の赤誠は、津々浦々に麗しい美談を生じてゐるが、福岡縣粕屋郡箱崎町字上小寺町、李世源君(四四)は果物商として眞面目に働いてゐるが、かうして無事日暮しさせて頂くのは偏に、天皇陛下のお蔭であると痛く感銘し、事變發生以來深く皇軍將兵の勞苦の程を忍び、銃後にあつて吞氣に煙草を喫するは贅澤であるとし、昨年三月より本年二月まで一ヶ年間、毎月禁煙して得た金五圓を恤兵金として警察署を通じて福岡聯隊區司令部に献金し、その義學は美しい話題として巷間に傳り多大の感銘を與へてゐる。

美談が美談を生む

批判する前に自分の爲すべき事を爲せ。

これが神奈川縣平塚に住む文村太吉君の協和事業に對する信條である。

文村太吉君は昭和十三年一月平塚市に來住し協和會の懇談會に出席し、求むる心を捨て、獻歸の精神に立返つたのが甦生の第一歩である。

自分は古物商であるから一番多く道路を汚し、近隣の人にも迷惑をかけて居る。附近の人が喜ばないのは當然である、と文村君は懇談會の次の日から道路の清掃を黙々として初めたのであつた。何時とはなしに一人増へ二人増へ、近所の人達に一時間の早起と道路の清掃奉仕を實行せしめてしまつたのである。

平塚で協和會の文村と言へば知らぬ人は無いと言ふ程に文村君は一般内地人から尊敬され、親まれて居るが、實に勤儉力行の人で陸海軍に献金を爲したる事は數回に及んで居るが、本年正月以來義島式ポンプの特約販賣店となり防火思想の普及に努力して居るが、平塚市役所、平塚警察署、平塚市第一、第二、第三、第四、第五の警防團等へ七臺の義島式木製時價三十八圓のポンプを寄贈された。先日平塚市の煙草販賣所からバットの空箱を八百貫買受け一切の費用を差引いて十圓の利潤を得たが聴けば國民の一人くが國を愛する一念から煙草の空箱を態態持歸つて店頭に集めたので其の金の全部が恤兵金として献金されるのだと言ふ事であるが、此の様な尊い品物で儲けようと思つたのが恥しくなつた。此の金は自分の懐に入れるに忍びないので何か役立たせ度いと考へて居たところ、今朝新聞を見ると、生麥に大火があつて百三十戸も焼けたと言ふ事ですから、此の人達へ火災の義捐金として、送つて頂き其の金を生かし度いと、平塚警察署を尋ねて十圓の紙幣を差出し係官を感激せしめた。八百貫の煙草の空箱を買つて十圓の儲は當然の手數料であるのに、商人といへどもこんな尊い品物では儲けられぬと言ふ氣持は國を愛し、國恩に感激して居ればこそ、斯くの如き心境になれるので補導員の鏡である。

お湯錢を貯めて

去る二月三日言問警察署を訪れ献金を申出でたひとりの半島青年があつた、青年は本所區平川町一ノ四に住居し古物商を営む趙洋淳君と言つたが、その献金を申出でた金十二圓九十錢が全部十錢玉であつたので不審を抱いた係官は色々と追求して取調べた所、左の如き非常に美しい心掛の献金と判り係官いたく感激早速海軍省へ手續きしたが、尙ほその美しい行爲は一回のみに限らず先々七月十日に又金十圓也を言問署を通じて海軍省へ献金申出でた、一度ならぬ二度までのその行爲には全く係官は感激したのであつた。趙君語る。

「私はいつも十錢玉をもつて御湯に行くのです、が戦地に居られる兵隊さん達が御湯にはいる事も出来ず毎日必死の奮闘を續けて居られることをお聞き致しますと私達銃後のものが毎日安閑としてくらし自由に御湯にはいるのは申譯ありません。それで御湯に行く回數をへらしまして、貯めた御金でありますどうか御役にたて、頂きたいと存じます。」

赤誠凝りて

一、献金

- 1 長野縣豊科支會々員三十二名は昭和十五年八月十日興亞奉公日に際し廢品回收運動を爲し、二十六圓十三錢の利益金を松本聯隊區司令部を通じ國防献金をしたり。
- 2 篠ノ井支會 近村(埴科郡森村)の火災(五十七戸一五〇棟燒失)に對し救護金を據出し支會長を通じ該村に提出せり。

出資會員 二十名
救護金 十圓

金額は少額なるも半島同胞の赤誠に近郷の賞讃を受けつゝあり。

二、慰問

- 1 伊那富支會 より汽車にて三十分の遠地にある日本赤十字病院に療養中の戦病傷白衣の勇士を支會代表を送り慰問し不自由なる言語にて慰問文を朗讀し白衣の勇士を感激せしめたり。

期 日

昭和十五年十月二十六日

代表會員

二十二名

皇國の婦人として

兵庫縣川邊郡伊丹町伊丹二六〇ノ一伊丹支會、車蓮小熙さん(三〇)は數年前より國防婦人會に入會し勇士の送



(縣山富) てめ込を謝感へ士勇軍皇



(府阪大) もへ士戦ぬは云のも

めとつその後銃

迎又は慰問品の發送等一般會員に範を示して居りしも今般國防献金として（昭和十三年十月一日以來毎日二錢を貯金箱に投入貯蓄せるもの）十圓七十五錢を支會を通じ献金せり。

一日五錢貯金

兵庫縣加東郡社町上田町獸肉販賣業、韓琪言君（四一）は昭和三年八月内地渡航以來獸肉行商をなし生計を立て今日に及べるものなるが、家庭には妻李南三さん（四一）との間に四女ありて家計豊かならざるも昨年五月六日以降一日五錢貯金を一年間勵行し之が總額十八圓二十五錢を支會に國防献金として寄託せり。

銃後婦人の赤誠

兵庫縣養父郡關谷村中瀬入鹿支會日本精鑛中瀬鑛山に働く婦人會員十四名は、皇軍の勞苦を偲び之に感激し一日戰死報國を決議其の稼賃合計二十圓七十錢を國防献金として支會に寄託せり。

禁煙して

兵庫縣篠山支會の管下に住む篠山支會、孫普生君（二五）は從來一ヶ月約二圓の喫煙をなし居りたるも時局を認識し、爾來禁煙をなし其の費用を國防献金すべく貯金しつゝありしが此の程二十圓に達したので國防費として献金せり。

皇軍の勞苦を偲び

兵庫縣伊丹支會の會員は兼ねてより時局を認識し出征將兵の歡送、英靈の出迎へと銃後の熱誠振りを發輝し居りしが、今回、申し合せに依り慰問袋發送を企圖し其の資金を募集した所、赤誠あふるゝ壹千參百餘圓が集り、其の資金を以つて慰問袋六百五十個を調製し第四師恤兵部に献金せり。

尙又兵庫郡明石郡林崎村大林組飯場が焼失し三〇〇名が罹災の難にあつたのを明石支會の指導員崔一玉君外五名は金五百二十五圓三十三錢を醸出して、氣の毒な人達に分けて下さいと支會長に寄託せり。其の他各支會にありては公債の購入、勤勞奉仕等たゆまぬ銃後の赤誠振りを發輝してゐる。

小遣錢を節約して

東淀川區木川東ノ町一丁目一、李宗萬君外五名は、日支事變以來皇國臣民としての幸福なる生活をなしつゝあ

ることを、感激し感謝の意味を以て毎日の小遣金を節約し昭和十四年九月以降申合の上毎月金五圓宛を醸出し國防金を續行しつゝあり。

禁酒して

東淀川區西町二五一針打工、朴夢述君は昨年皇軍慰問袋贈呈の爲め零細なる醸金をなしたるに慰問袋を受けたる戦場の勇士より矯風會長宛の禮狀を印刷配布家庭會の席上之を傳達したるに深く感激し、爾來禁酒を勵行し、其酒代を金貳十五圓貳十錢を國防獻金として献納方を申出でたり。

生活費を割きて

奈良縣協和會、櫻井支會安部分會婦人部牧山海童さん他十九名は三月四日、生活費の一部をさきて一錢貯金を申し合せ此の程金十四圓也を僅少乍らと軍人援護會奈良縣支部へ献金した。

志願兵の父として

大阪府西成區鶴見橋北通五ノ五吳服商、金玉出氏 長男金榮敬君(二五)は志願兵として支那事變戦線の第一線に出征活躍中なるが、本人は現下の重大時局に關心を有し銃後に眞心を捧げつゝあるものなるが、國防充實の最大急務なるを痛感、進んで其の萬分の資に供し度しとて昭和十五年八月二十七日金百圓を國防費に献金一般に多大の感激を與へたり。

産業戦士の赤心 (一)

福岡縣朝倉郡三奈木村十文字、朴順億氏の奥さん徐脊順さん(四三)は時局下安住し得らるゝは皇軍將兵の御蔭に依るものなりと國恩の有難さに感激し、日日零細なる小遣錢を節約したお金が金拾圓に達したので、昭和十五年五月三十日献金した。

産業戦士の赤心 (二)

福岡縣鞍手郡宮田町貝島炭礦、姜龍石君外六三〇名は超非常時局下に安住し得らるゝは全く國恩の御蔭なりと昭和十五年六月九日の公休日を利用し自發的に勤勞したる上献金デ―を實施し依て集りたる金百貳拾五圓を献金せり。

産業戦士の赤心 (三)

福岡縣嘉穂郡款田村勢田明治炭礦の東源一郎氏外五一名は時局下國恩に感謝して、昭和十五年六月二日及同月二十三日の公休日を利用し自發的稼働に依り得た勞賃金五拾圓を獻金した。

産業戦士の赤心 (四)

福島縣石城郡内郷村盤城炭礦株式會社濱場九郎君外一四名は皇軍將兵の戰場に展をさらし奮闘せられつゝあるは銃後に於ける我々として眞に感謝に堪へず。我々は此の勞苦に對し眞心を以て酬ひざるべからずとし、爾今一本の煙草一合の酒を節飲節酒し獻金致し度とて昭和十五年二月六日貳拾圓九拾錢を積立て之を獻金したり。

皇軍勇士を歡送す

長崎縣北松浦郡柚木村字里美縣營溜池工事場、朴成發氏(四七)外十六名は、この工場に來住と同時に國防獻金

を決意し居たるものゝ如く普通一般の勞働者に在りて雨天等には勞働を中止し休養するのと同君等は、來住以來本日まで雨天と雖も休養したることなく稼働し、本月十七日勸定日に各自の賃金よりの四十五圓を醸出獻金し、尙同工場土工として稼働し居たる佐賀縣下曲川村、石永惣太郎君が〇〇隊に入營する爲め歸郷に際し同君等は祝旗及餞別を贈り更に木村光春君外二名は代表として仕事を休ませ曲川村の實家を慰問せしめ一同藏宿驛迄見送をなしたることは痛く村民に感動を與へたり。

皆 舉 つ て

山梨縣中巨摩郡小井川村居住三浦學奉君は中巨摩郡内居住半島同胞と圖り昭和十四年四月三日、神武天皇祭の當日半島同胞二十七名を以て半島同胞銃後々援會を組織し、各會員より毎月三十錢の會費を徵收し其の三分の一を國防獻金にし、三分の二を出征兵士の慰問費にすることとし、發會式當日金四圓を國防獻金し、昭和十四年十一月二十日同村妙泉寺に小井川村外四ヶ村の出征兵士遺家族慰安演藝會を開催し遺家族の慰安をなしたり。

皇軍傷兵に感謝して

慶北大邸府南山町出身岐阜縣大垣市馬場町ダイヤ修繕業、金森義雄氏(四四)は、大正十一年二月内地に渡航以

來大垣市に居住し、昭和五年自動車タイヤ修繕業を初め、現在家族七名にて數名の雇人を使用し、十數萬圓の富を有し、性質温順眞面目で酒煙草等を口にすることなく、孜々として家業に精勵し、渡航半島人は元より一般内地人の模範とされてゐるが、今次事變發生以來、自分達がこうして幸福に暮すことの出来るのは命を捨て、戦かつて下さる兵隊さん方の御かげと、時局に對する認識深く平素入營出征戦病傷兵の還送の戦死者の公葬參列遺家族に對する慰問等に率先して奔走するの外、協和會の補導員として會員の指導に渾身の努力を盡し、盡忠報國の念に燃へ左記の如く寄附献金をなし銃後美談の主として稱揚されつゝある。

- 一、昭和十二年以來毎年在郷軍人分會維持費として、三十圓乃至五十圓宛を寄附。
- 二、昭和十二年以來防空訓練費用に二百五十圓を寄附。
- 三、昭和十四年九月九日戦病死者遺家族慰問金として、金三百圓を大垣市銃後奉公會に寄附。
- 四、昭和十五年三月海軍思想普及部へ金五十圓寄附。
- 五、昭和十五年三月國防献金として金三百圓寄附。
- 六、其他大垣市中國民學校講堂建築費として金千圓、結核療養所新設費として金二千圓、町内社會事業費として三百圓寄附。

燃ゆる夫婦の赤心

慶北義城郡金谷面新利道出身岐阜縣羽島郡笠松町朝日町古物商、金川在永君(三四)同妻女金川福仁さん(三二)の夫妻は八年前渡航笠松町で古物商を営んでゐるが、本年二月二十七日協和會笠松支部總會で藤井支部長から銃後國民の覺悟に對する訓示を受け感激して歸宅した夫君が、其の旨を妻女に話した處
「私が内職してためたお金が五圓あるから献金したい」と語り夫君も悦んで「自分も十圓献金しよう」と夫婦の清らかな相談がまとまつて、貧しい生活の中から旬日を過ぎた三月十一日笠松警察署に國防献金として十五圓を寄託した。

生活費を節約して (一)

岐阜縣協和會岐阜支部、許宗男君外四六三名は、日常生活費を節約の上各會員三十錢宛醸金の上慰問袋を調製日赤日赤岐阜支部を経て發送した。

生活費を節約して (二)

岐阜縣協和會支部季相雲君外四百二十名は酒、煙草の日常生活費を節約し二十錢宛を醸出し慰問袋を調製日赤支部を経て發送した。

内鮮人情の齎した赤誠

大阪市西成區長橋通り七丁目四番地飲食店 申亭太君(三八)は約四年前より前記住所に於て飲食店業となせるものなるが去る八月二十六日正午頃次男申世範(四才)が自宅道路上に於て遊戯中誤つて通行荷馬車に觸れ轢死したるが、加害者側にありて之れが弔意を表する爲金五拾圓也を靈前に供へたるも申亭太君は其の志のみにて充分なりと受取方を拒んだが再三の申出に承諾受領したるも愛兒の靈に對し該金を徒に生活費又は葬儀費等に充つるに忍ず、種々考慮の結果去る八月二十七日該金を今宮警察署に持參國防献金方を申出で之れが取計を受けた。

家族擧つて廢品回収

青森縣七戸町澤田豊市君(四四)は、性質温良、素行良行、業務精勵、家庭亦圓滿にして、昨年七月一日興亞奉公日には家族一同廢品の回収に當り之に依つて得たる益金七圓五拾錢を國防献金し、尙兵器物協和號献納資金として日頃勤儉貯蓄せる金拾圓を寄附する等常に内鮮協和に盡力してゐる。

貯金箱が献金箱となる

大阪市天間橋郷性彌君(三〇)は昭和十三年より現住所に於て古物商を經營し居りたるものなるが昨年七月八日より、皇軍慰問の献金を志し店舗の片隅に貯金箱を備置き之に毎日五錢宛の貯金を實行し、本年七月七日の事變記念日に至り之が開封の結果十八圓二十五錢に達し居りたるを以て直ちに當署保安係經由献金の手續を爲した。同君は以前も(一昨年七月)同様の方法を以て昨年七月七日の事變一周年記念日に對し、同署經由の上献金を爲し今回又其の血汗を以て銃後國民の爲すべきことを爲し續けたるものにして其の赤誠全く感激すべき所ありたり。

生活費の残余を

大阪市北區樋之口町三七、金石乙岩君(四五)は昭和十四年より現住所に於て蕪吹商を經營し百二十圓の月收を以て家族七人生活し居りたるものなるが、一昨年支那事變以來半島出身者の報國の道は勤儉貯蓄と献金にありとし、事變當初より今日に至るまで毎日商賣より得たる利潤金を以て生活費八拾圓を控除し其の殘金四十圓は主として貯金又は献金を爲し其の行爲たるや實に銃後國民たる一般會員の範となすべきものあり。

アサリ貝を賣つて献金

熊本縣協和會荒尾支會にありては昭和十五年七月七日支那事變記念日に當り、炎天下に於ける第一線皇軍將兵の勞苦を偲び併せて銃後國民の身心鍛鍊並團體行動實地訓練を目的として支會役職員の引率の下に會員七十二名五名郡有明村海岸に於てアサリ貝採取に従事一石五斗五升を採取し、同郡長洲町雜詰會社に賣却し、代金四十圓を全部國防献金した。

勞働賃金を

熊本縣協和會三角支會員は昭和十五年八月十八日當時宇上郡三角町に於て工事中の熊本三角間の産業道路工事に會員三十八名就働し勞働賃金五十圓を全部國防献金せり。

遺家族援護

銃後は堅し

大阪市東成區中濱町二二四番地、山本林次郎氏は客年〇〇聯隊に應召入隊、目下中支戰線に勇躍中でありすが、同氏の妻ぬいさん(二十八)は夫出征後大阪工廠に入職日給七十二錢を得、更に軍人扶助金一日七十九錢及同居者實弟の日給七十錢等を以て五人の兒女——長女阜美さん(八)、長男幸雄さん(七)、二男昭男さん(六)、三男順二さん(四)、四男正彦さん(三)——を抱へて健氣にも留守宅の生計を維持し居りたるも、去る七月三日病氣(神經痛)のため工廠を退職し専ら保養に努め居り、更に實弟久保正一君(一七)及實母久保さよさん(五六)が共に病氣のため本籍地に飯國等にて思はぬ費用を費し生活に窮乏して居たるを、偶々協和會事業區別懇談會席上に於て池内幹事が銃後國民の務と題して前記家族が、洗ふが如き窮乏の生活を續け乍らも健氣に、戰線に在る夫に對し後顧の憂なく御奉公せしむる女丈夫和撫子の意氣ある點を引用披露し銃後國民の覺悟を強調したる處、深く協和會員を感動せし、其の後中濱事業區指導員孫和翼は最寄會員と相計り夫々十錢乃至一圓を持ち寄り會員三十七名釀出金額十九圓五錢を該遺家族の援護費の幾部にも充當せむと本會を通して寄託方申出たるものにして全く純情よりする奇篤行爲である。

英 靈 弔 慰

國土を擧げての聖戰最中吾々統後國民が斯くも安穩に生活を楽しみ得るのは一に 天皇陛下の稜威の下、身命を賭して勇戦せられる第一線勇士の御蔭である。何とか感謝の微意を捧げたいと群馬縣原町支會の補導員山田鐘學君他は寄々協議の結果、先づ自分達の住む村から出征し護國の礎となられた英靈に對し、盆祭に際し香を手向けて弔慰することとし、會員一般に對し香料醸出を圖つた所總額九十二圓七十錢の淨財を得たので、中六十一圓二十錢を以て線香、壽永印小箱〇〇〇個を買入れ管内〇〇柱の英靈に對し補導員及各駐在所警察官を代表として、遺家族家庭を訪問懇ろな弔詞と共に線香〇箱を靈前にお供へした。弔慰を受けた遺族の一人、原町居住阿部甚藏氏は語る。

今日は朝鮮の人達の團體から件の靈前へと御線香〇箱を頂戴した。聞けば管内十ヶ村の事變戰歿者英靈全部に對し私方と同様にして頂く相であるが此れと云ふのも一に上 陛下の御仁慈に依り日本全體が一に團結してゐる證據で、朝鮮の人達の御厚意は勿論感謝に堪へないが、日本の國民と生れた幸福を此の朝鮮の人達の美擧を通じて一層強く感じる次第である。

職 域 奉 公

福岡縣京都郡行橋町字門樋、高橋萬吉君(三六)は、昭和五年八月十六日内地に渡航して以來同地にて古物商を営んでゐたが今次事變發生以來、勞働力の各種軍需産業部面へ吸収せられ、行橋町八百戸に對する糞尿汲取も停滯し、一般町民は元より町當局に於ても、成行を憂慮し居る狀況を看取し、敢然糞尿汲取を決意し昭和十五年一月三日清潔社なるものを組織の上、半島人四名を使役して職域奉公に努めつつありますが、同人は業務開始以來、同町出征軍人遺家族五拾戸に對し、毎月一戸當四十錢乃至二圓に該當する汲取費を無料として奉仕的汲取を實施し、出征軍人遺家族初め町當局は勿論、一般町民賞讃の的となつてゐる。本人は半島に生を享け第一線に參加出來ざるせめてもの償ひとして統後國民の義務を果す迄であつて當然の事なりと言ひ、統後美談の花を咲かしてゐる。

戦地でも喜ばん

群馬縣碓氷郡松井田町三二六、農業小板橋佐平氏方に於ては、夫婦の他長男寅雄君を合せて三人家族であつたが昭和〇〇年〇月軍籍にある寅雄君に教育召集令が下り、〇〇隊に入隊中引續き臨時召集を命ぜられ勇躍第一線

に向つた。一家の働きの中心たる寅雄君が征いてからは佐平氏老夫婦には五反歩の畑作の手入、收穫は相當重荷となり諸事手が廻り兼ねた。今年の夏作の小麥も脱穀未済である。此の状況を偶々知つた協和會松井田支會の崔景仁君は、八月二十三日の支會臨時總會に會員の勤勞奉仕を提議し、九月一日の興亞奉公日を期して同君他五名にて午前七時半より午後五時迄手辨當で勞力奉仕を行ひ小麥十二俵を脱穀收納したのである。奉仕を受けた小坂橋氏は次の如く感激を面に顯し感想をもらした。

私共はこれ迄親類や組合の人達から手傳つて下さるとの話もあつたがみんな斷つて來ました。今時分小麥落しも濟まない等と云ふことは全くお話にならないことですが、伴の歸つて來る迄人様の御世話になるまいと云ふ覺悟で今迄やつて來たのです。處が今日朝鮮の人達が來られ麥落しを手傳つてやらうとお話で、私には全く思ひがけないことで、朝鮮の人達の此の暖い心には我慢の角も折れて早速御厚意に甘へることに致しました。こんな親切丁寧に働いて頂いて全く有難度うござりました。私は今年七十歳であります、以前の朝鮮の人達とは大變なちがひです。これでこそほんとうの日本人として尊敬させられます。御蔭様で十二俵の小麥が出來ました。伴も戦地で囂喜ぶことせう。

又代表者崔景仁君の感想を伺へば

興亞奉公日の一週年にこのやうな奉仕をした事は眞に愉快で永久に忘れられません。然し私達のした仕事は銃後の國民として當然です。食糧の問題から見ても大いに研究すべきことです。協和會の仕事として斯うした事は今後も引續きやりたいと思ひます。

熱意を込めて

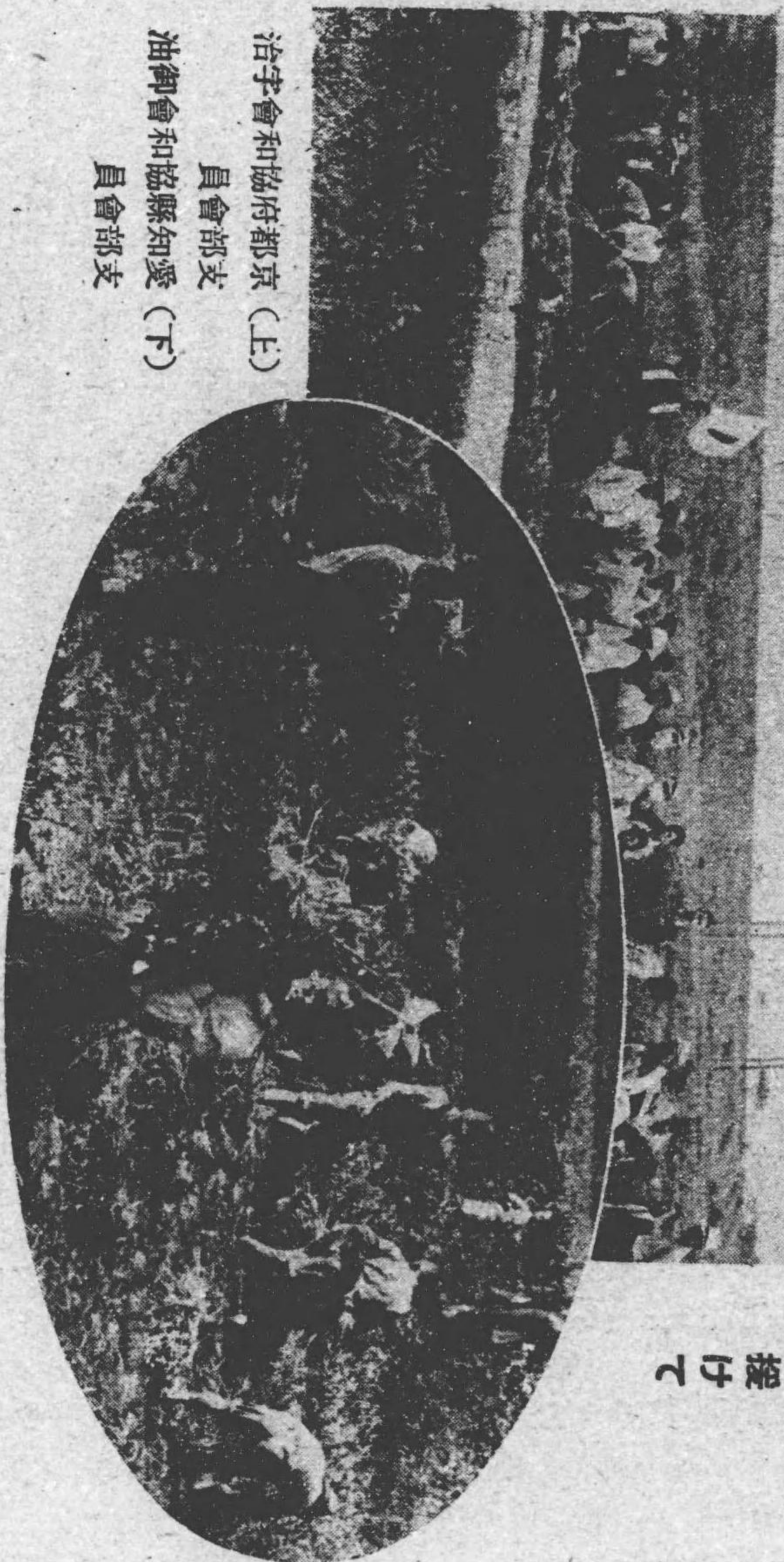
京都府協和會峰山支部會員として昭和十年七月以來、府下中郡河邊村四二番地居住の安在編君は、小作農兼屑買業を営み其の性質は極めて溫和にして、村内一般の氣受けも良く、家業に精勵して居りますが、偶々今次事變の發生に逢ふや、能く時局の何たるかを認識し、銃後國民の責務を全ふせんことを深く心に誓ひ、自發的に、村内の應召軍人家庭の田植稻刈其の他の農事作業を手傳ひ、以て勤勞奉仕を行ひつゝ、其の家族を慰め、或は應召者ある毎に貳圓程度の範圍にて、餞別を贈つて、其の行を壯にし、或は又戦死者あつたときは其の都度白米一升及金壹圓程度の香資を供へ、親しく其の遺族を弔問激勵する等、兩者を合して既に〇〇名の多數に及び、彼が熱意を以て示せる幾多此等の銃後赤誠の發露には、村民もいたく感激して居る。

出征の主家を助けて

林贊圭君(二七)は、早くから両親に死に別れ普通學校を二年で退學し、徒弟の林永星氏方に雇はれ後大邸府の實兄の家業を手傳つて居りました。昭和八年四月二日メリヤス製造業荒木久四郎氏方に雇はれ當時住込店員として月給六圓を支給せられ居りましたが、業務の練達に伴ひ徐々に昇給し現今は參拾五圓を支給せられ雇はれて以

來實直に就働し、業界の營業方針會得に専念し、毎月給與金も僅少なる小遣錢を除き本籍地に送金したり或は貯蓄等をなし名實共に實直勤勉なる情況に雇主の信用を昂め且つ取引關係者の信望もあり將來を囑望されて居りましたが、就中内地化に留意し言語服裝は勿論諸般の生活改善に寄與し範を同胞に垂れ其の實績は見るべきものがあつた。然るに荒木久四郎氏は今次の支那事變に依り昭和十二年十月應召せられ營業の主體たる雇主は應召に依り營業繼續に關し妻フクエ(三四)をして是れに當らせるは極めて不安なる實情にありて數名の店員中經營の萬事を熟知せる林贊圭君に委せ繼續させる氣持なるも、取引の重要性に鑑み親戚並に得意先方面に於ては相當の信用ありと謂ふも直接の責任者無き爲後事に一抹の不安を感じたる情態を窺われましたが、雇主は昭和八年雇はれて以來林君の性格行狀を看破し、責任者不在中に於ける代理責任者としても何等の不安はないと確信し萬事を委任し従前の通り營業を繼續させることに決し後事を託し應召したのであります。其の間林贊圭君は従前に倍加し責任者たる自覺を堅持し銃後奉公の赤誠茲に有りと信念を強め克く業務に勉勵し違算がなく、當時毎月三拾五圓の給與も主人應召中は單なる小遣錢として五圓乃至十圓の範圍に留め定額支給を辭し豫め昭和十二年六月(主人應召前)より大阪貯蓄銀行にて三年滿期壹千圓の月掛貯金月貳拾六圓八拾錢を納金し是れが納金は主人に於て通帳を保管、給與金より月掛金の差引をして居りました處應召により定額給與を固く辭退し直ちに通帳を自己保管として主人よりの掛金をなさせぬ様努めて居る内主人荒木久四郎氏も召集解除に依り歸還し、従前通り店舗の經營に當り居れるが、應召期間中の代理責任者林贊圭君の業績に關し詳細に検討するに何等容疑の點無く所期の如く眞摯なる勤勉狀態に痛く感激せしめ應召軍人家族を完全に守りたりと云ふべし。

遺家族を援けて



治宇會和協府都京(上)
員會部支
油御會和協縣知愛(下)
員會部支

守れ銃後の家庭を

熊本縣協和會八代支會員八代郡宮地村、八干杷村、昭和村に於ける出征軍人遺家族の爲め昭和十五年七月二日より七月十日迄會員五十四名六班に分れ勤勞奉仕を爲し好成績を擧げたるを以て左記の通八代郡農會長より感謝状を受けたり（其他各府縣協和會に於ては其々遺家族家庭の勤勞奉仕を爲し銃後の任務を果しつゝあり）

感謝状

熊本縣協和會八代支會

右支那事變應召遺家族の爲農業勞務奉仕せられ時局下の食料増産の爲又精神作興の爲貢獻せられ誠に感激に不堪仍而本會は茲に感謝状を呈し謝意を表す

昭和十五年七月二十日

熊本縣八代郡農會長 坂田道男 ㊟

赤誠は續けらる

奈良縣協和會郡山支會々員は支會長引卒の下に一ヶ月第一第三日曜日には陣歿將士の遺族並に出征軍人家族の

慰問並に勤勞奉仕をなせり。

美しい内鮮一體

一億國民一體となつて銃後を固める秋、これはまた内鮮一體と軍人遺家族表彰と二つを兼ねた明朗な話題がある、八日午前十時から府廳舎で銃後の龜鑑として表彰された人々のうちの紅一點京橋區西八丁堀三の九の三成宮君江さんの記事を八日付の朝刊で讀んだ目下商用で上京中の朝鮮京城府東四軒町一〇〇の朴基孝氏と夫人張達莫さん今は朝鮮各地で鑛業を営んでゐる百萬長者の身分だが、昔夫人の實家の貧しかったところから健氣な君江さんの働きとお母さんの心勞を偲び、なにかの足しにもと讀賣新聞社を通じて毎月卅圓、一年間の御見舞を申出た。

成宮さん方では折角の御志ながらと辭退したが、君江さんの勤務先鳥居商店主人も内鮮一如と軍人援護の立場から受け取るやうすゝめたので、漸く受取ることを承諾、朴氏夫妻も喜んで十日歸鮮することになった。

成宮君江さんには母親きくさんと、長男横須賀〇〇隊〇〇二等兵曹幸男氏、〇〇部隊上等兵として活躍中去る七日中支金糧で戦病死した次男博氏、深江部隊一等兵で北支に出征中の利忠氏の三人の兄があり、君江さんは兄達の出征後病弱の母親を抱へ日本橋區本町藥種問屋島井商店のタイピストとして働き、軍事扶助も受けずに母に孝養を盡すかたはら兄に代つて一家の柱石として立派に銃後を護つて來たのである。

— 遺家族援護 —

農繁期を扶けて

河川の水利に恵まれない香川県では、溜池の水を追水として貯へ置き、降雨を待つて一齊に田植が始まるので農家では猫の手をも借りたいほどの繁忙を極めるのである。

昭和十五年七月三日四日の兩日高松支會會員は恰かも前日來の降雨に縣下各地とも田植が初まるや會員は部署を定めて高松市内舊木太村、太田村、鷺田村の軍人家庭につき奉仕作業を行ふた。

一、奉仕 出征竝に應召軍人を出せる農家五十戸 奉仕會員六十九名

一、狀況

當日午前七時各小學校に集合、校庭に於て皇居遙拜、戦没將兵感謝出征軍人武運長永祈願の爲默禱を捧げたる後、市役所出張所長より挨拶を農事改良組合長より作業上の注意を受けた後、農家一戸につき一名乃至二名之に補導員が附添つて、牛使ひ、畦付け、苗取り、田植などの作業を實施し午後七時終了。二日間續行した。

一、反響

奉仕を受けた農家では、「手不足で焦慮せる折柄奉仕朝鮮の人々竝に斡旋指導に當つた署員に對しては感謝の言葉も持たない、又一面一部内地人に對して範を示すもの」と感激せり。

尙當日事故のため不参加の會員三名は大いに之を遺憾なりとし、各一圓乃至五圓を醸出して國防献金を爲した。

出征遺家族慰問

東京府協和會砂町支會にありては出征遺家族へ感謝の趣旨より會員から慰問金を募集いたした所、金四百五圓應募、早速管内出征遺家族八拾壹名に感謝の書狀を添へて慰問したが、時節柄此の半島同胞の美舉には非常に感激させたのであつた。

舉つて守る

大津支會に於ける出征軍人遺族勤勞奉仕は、昭和十五年十一月十日縣内藤社會課長を始め協和會員二八六名出席のもとに遺族家庭七四戸を奉仕せり。奉仕員一行を第三班に分ち、第一班濱大津、第二班膳所本町、第三班石山驛前に各午前六時集合直ちに出征軍人遺家族農家の田畑に於て稻刈、草取、雜木起し等終日眞摯に勞力を惜しまず奉仕したる處遺家族の感謝は之より各方面に多大の感銘を與へ、一般内地人は半島人に對し再認識し内鮮一體を促進する好成绩を收め四時過散會せり。

勤勞奉仕に對する被奉仕家庭某語る

「勞力不足で吾々隣同志でさへ仲々御互に農作の助け合ひのしにくい今日、半島の人達が忙しい餘暇を割いて私達の田畑の勤勞奉仕をして下さつた爲、内地人なら兎も角、夢にも思はなかつた半島の人でしたから、實際涙が出て衷心感謝して居ります。農村勞力の不足の折から、息子が義務として戰場に出ている此の際奉仕して下さつた方に對しては御禮の申し様がありません。今迄半島の人達に非常に無理解であつた私達も、今啓蒙されました。他の奉仕を受けられた方々も同様に感じて居られる事だらうと思ひます。今後之が内鮮一體の楔となる事と信じます。早速この事を戦地の兄に知らしてやり共に喜びを分かち安心する様に云つてやります」。

勇士の遺家族は我等の手で

山口縣協和會山口支會では昭和十五年六月麥刈の農繁期に當り、出征軍人並に戦死者遺家族の勞力不足に鑑み其の家庭〇〇戸に對し二百五名の會員を五ヶ班に分ち、勤勞奉仕作業（麥刈）を爲したが特に遺家族家庭に迷惑なき様各自鎌と中食携行の上終自懸命の奉仕作業を爲せるため遺家族中には感激のあまり當署に出頭して禮を述べ、記念寫眞を出征中の實子に送付狀況を知らすとて之が讓渡方願出なるものある等各遺家族は勿論一般民をして痛く感激せしめた。

銃後の守り

或る夫婦

横濱市神奈川區西寺尾町九〇番地、姜叡香君は、昭和十三年の春、或る日、神奈川通りの食堂に入つて晝食をして居ると、隣席に腰を掛けて居る三人連れの青年が首を傾け乍ら、國旗掲揚塔建設の計畫に付て話し合つて居る。聽けば資金募集に相當困つて居る様子らしい、食堂を立つた姜君は、國旗掲揚塔か、國旗掲揚塔か、と獨り言をつぶやきながら何時の間にか我家の前に立つて居た。

内地來て數年更に西寺尾に移つてから既に三ヶ年になるが、町内の方にお世話になるばかりであつた。少しでもお國の爲めになる事ならと、妻君に相談したところ奥さんも喜んで賛成したので、夫婦は連れ立つて、其の夜共稼で汗水流して得た貴いお金で本麻の立派な國旗（長さ六尺價二十圓）を買求め西寺尾の青年團長の家を訪れた。

朝鮮から此の町内に來て、まだ幾年も経たぬのに、と町内の有力家も感激し、では自分の所有する山林から其の國旗と釣合の槍を切つて呉れると言ふ様な譯けで直ちに感激が感激を生み、寄附金も豫定以上に集り青年が食堂で計畫して居たそれよりも遙かに立派な國旗掲揚塔が出来上つたのは事變第二年の四月の事である。盛大なる竣工式が町内會長、學校長、其他有力者會同の下に舉行せられた。

姜君夫妻は招かれて式場に参列したが、團長の挨拶、來賓の祝辭爛々と咲き誇る櫻の花びらまで其の美學を讃へるが如く姜君夫妻の身邊に降りそよいでゐた。

在郷軍人分會長の平野佳季氏はいたく感激し、それ以來と言ふものは各種會合の席上で姜君の國旗掲揚塔と題して内鮮一體の講演を續けて居る。

國旗掲揚臺寄附

福岡縣築上郡築城村大字築城、人夫監督、成吉長治君(二九)は、昭和九年内地に渡航して以來、眞面目に働き續け最近はその支會の指導員として克く會員の内地化に努力したる甲斐あつて段々向上進歩し其の功績を認められ、警察署長より表彰せられた程の勤勉努力の人である。

事變發生以來皇軍將兵の勞苦を思ひ、歡送迎には何時も日の丸の小旗を以て近隣の内地人と共に缺かした事はなかつたが、其の都度に感じせしめらるるのは、同村役場に國旗掲揚臺の設置なきことである。これは誠に遺憾なことであるとして、同村長の諒解を得て、同村居住半島人三拾名に相談、花崗石を基礎とし、檜(長さ七間)を掲揚竿とし經費百圓餘を投じて建設に着手し、昨年九月七日竣工したるを以て、村當局へ其儘寄附した村當局及村民は痛く感激其行爲に感激し、翻譯とひるがへる國旗の下に同村内に美しい内鮮協和の歌を奏でられ共に銃後奉公の誠を盡してゐる。

青年團旗を寄附

群馬縣利根郡赤城根村大字柿平、新望銅山赤城根鑛業所林飯場林謙次郎君は、昭和十五年十月から赤城根鑛業所に來住し林飯場を經營して來た者であるが、同郡東村大字園原に於ては部落の青年團に出征、入營兵の送迎用團旗がなく志氣振興上遺憾の點あるため、部落の人達が團旗を購入につき腐心中なるを偶々聞き及んだ同君は、「買入金の一部にでも」と六十圓を寄贈したのは今年の一月の事である。同君は來住以來日は浅いのであるが至極まじめな性格で豊かでもない暮らしの中から「不斷私がお世話になる村の方々の爲に」と此の美學に出でたもので部落の人達は勿論鑛業所關係者を痛く感激せしめて居る。

内 鮮 一 體

堺市東湊町一ノ九〇番地、丁夢奇氏(四六)は大正七年五月内地渡航來阪爾來孜孜として勞働に従事し、現在資産數萬圓を所持し堺市東湊町に於て酒商を營み、内鮮人數名を使用して居るものなるが、本名は性温順にして實直なる爲内地人の信用を博し、其の間内地婦人を嫁り二子を擧げ、二子共に府立中學校を卒業せしめ居り、在堺朝鮮人中の成功者にして且朝鮮人の内地化運動に對しては卒先其範を示して居るものである。丁氏は兼てから自

己が人一倍内地化し居るに拘らず未だ一部在住朝鮮人に於て朝鮮在來の弊風を持續したために内地人の指彈を受けて居るを歎き、所轄堺矯風會設立以來は身命を賭して事業に盡粹し、昭和十二年十一月三日當矯風會の指導員に任命されるや、銳意事業の遂行に努力し、受持事業區をして相當の成果を挙げしめ、最近に於ては商業を雇人に委ねて事業に没頭し支那事變發生以來は常に受持會を指導し、國防献金を奨励し自己も又卒先して國防献金百圓に慰問袋等を送付する等銃後々援に寸暇を惜みて奔走しつゝあるが、這般自己の雇人たる本籍泉南郡樽井村谷定市(二三)が動員下令に依り應召の命を受くるや丁氏は朝鮮人の家庭より出征者を出すのは自分を以つて始めてあり、一生一代の光榮なりとし、寢食を忘れて出征準備に狂奔し、附近在住内地人も此の誠意に感激し、出征當日には附近町内會員の各種團體は勿論、之を傳へ聞きたる耳原町在住の朝鮮人を合して内地人約八百名は何れも丁氏宅に集合して出征者の壯途を祝福し、南海本線湊驛迄歡送せり。

出征者は勿論歡送に參集せる内地人は等しく此の内鮮一體の麗しき状態を目撃して痛く感激し居りたり。

情は人のためならず

三重縣協和會神戸支會補導員金在苗君は、去る七月二十九日午後五時頃河藝郡箕田村地内に於て、年齢六十歳位の男が四日市發津新地に進行中の參急電鐵會社の電車に觸れ顔面、胸部及び兩手に頻死の重傷を負ひ、急報に依り神戸署係員現場に赴き原因其の他を取調べたるも、言語不能携帯品なく全く身元不詳、取敢へず附近の醫師の

假手當を加へ、神戸町病院に入院せしむべく運びたるも、患者多く各病院共收容不能の状態にして係員をして途方に暮れてゐる折柄、附近在住の前記金在苗君は馳せ來り、附近に適當なる收容所なき事情を知り、自發的に自宅に該被害者を引取り看護方を申出で、同町醫師竹島虎之助氏の治療を受けしめたる結果、漸く意識を回復したるも依然言語不能の爲身元判明せず、其の間同人は常に患者の身上に注意し意識不明の内に室外に這ひ出さんとし、且又糞尿を爲し、蚊帳を吊るも之を取り去る等精神異常と認められる點あり、夜間に於ては終夜使用人と交替して看護に當り被害者に食事を與へ衣類を着せしめ、蚊取線香を焚く等身元判明に到る迄三日間良く犠牲的精神を發揮し、日本人としての立派な自覺と協和會補導員としての責任と任務を自覺し内鮮一如の實を擧げたる此の精神は内地人をして感嘆せしめてゐる。

田中君の情で重傷の身を肉身も及ばぬ世話になつてゐた自殺未遂男は三日朝に至り四日市市鹽濱河原松太(六二假名)と判明、神戸署の通知で實子東三さん(三八假名)が駆けつけ、謝禮金を置いて厚く禮を述べ引取つたが、情は人の爲ならずで、田中君(金在苗)の善行に對してはこの日參急四日市營業所から金五十圓、神戸署から表彰狀並に金一封がそれ〴〵贈られたので田中君は一部を津聯隊區司令部へ恤兵金にと差出し、協和會會員の感激すべき隣人愛は美しい實を結んだ。

初ちぎりの林檎

東京市本郷區駒込西片町八、自動車運轉手林禎二君こと林炳益君は眞面目に運轉手をして生活して居るが、十四年二月二十三日東京半島人自動車運轉手より皇軍慰問金を募集した。その際金五拾圓を陸軍恤兵部へ献納したが、同君には尙左の如き誠に感心すべき秘められたる美談がある。

昭和十三年二月或る日、寒氣肌をつく午前三時頃、自動車運轉手である同君は、御得意の客を送つて上野驛まで行つた時、驛前に於て赤襪をかけた一人の應召兵士が如何にも困憊其極に達したと言ふ有様で、右往左往しては自動車の乗車賃を交渉して居り、その模様によれば一人の附添人も、一人の見送り人もない林君は、突差に氣の毒な軍人様もあるものと思つて其の應召軍人に對し『何處の隊に應召されますか』と聞くとその兵士は『北海道空知郡砂川町上砂川月見ヶ原三の二菅原金男と言ふもので北海道から應召されて、只今上野驛に下車したが東京は初めて西も東も判らず、勿論隊の方向も知れず、自動車に乗つて行かうと盛んに交渉したが料金が貳圓だ參圓だでなか／＼纏らず、大變困つて居る』との話に『では隊には何時までに入隊するのですか』とき／＼に『今日の午前十時までに入隊です』との言に『只今は午前三時頃だし、隊には上野驛より〇時間で行けるから、今からでは早過ぎるし、此の寒さには隊に行つても早すぎて御困りでせう。責任もつて隊まで御送りするから私のお家までおいでなさい。何か暖いものでも御馳走しませう』と兵士を無理に説き伏せ、當時の住所湯島四の三の自宅に同行し、就寢中の妻君を起し、酒肴を整へ菅原君に心置きなく御馳走し、而して自分は午前九時頃自動車の就勞交替なる爲自動車を交替し、〇〇驛まで自動車で行くより目下ガソリンも節約統制の時局故省線電車で、

御茶の水驛より〇〇驛まで一緒に行く方が得策なりと指導し、自ら電車賃を拂ひ同道し、〇〇電信隊へ至り應召時間に無事恙がなく入隊し、同兵士の涙の感謝の中に別れて來た。

それから林君は如何かと案じつゝあつた所暫らくして届いた一通の手紙、開いて見ると遺憾乍ら召集解除となつて國元へ引きかへしたとある。さうして上京の際、貴殿夫妻のために親身にも及ばぬ御恩をうけて實に有難く思つて居る。この御恩は生々、世々決して忘れないとこま／＼と謝辭がのべてあつた。それから二月ばかりたつと北海道特産の林檎をつめた箱が林君の家へ運ばれて來た。

『自分の畑で出來た林檎です、今年の初ちぎりは、何をおいても、あなたにさし上げようと、心をこめて作つたものです、どうぞ召上つて下さい』と手紙が添へてあつた。

兄弟の契り

昭和十年眞夏、鎌倉市大町七〇〇番地荒井良雄君(金圭泰)昭和十年夏猪腰某氏宅では、しば／＼同町の荒井君を呼んで家財道具を賣却するのであつたが、見れば立派な邸宅に住ひ華かな生活をして居るのに何故に數千圓の家財道具を賣却するのか想像が付かなかつた。最初八人も居た女中が段々減つて二人になつた時初めて、事業に失敗したのだと言ふ事が分つたので同情の餘り手いづばいの値段で買つたが、或る日其の儘立去るに忍びず、事情

を尋ねて見ると、東京に某會社を經營して居るが赤字續きの爲めに家財を賣却して整理をして居ると云ふ事が分つた。此の話を聞いて多感な荒井君は黙つて居れなかつた。主人と膝詰めで語り合ひ、「現在の境遇に居て二百圓の家賃を支拂つて見榮を張るべきでない」、「夜ふけて明けに近し」出直して立ち上るべきだと懇々と覺し慰めたところ先づ何處かへ移轉すると云ふ事となつた。

次の日荒井君は自ら空家を探し求めて歩いて、やつと二ヶ月の前家賃を支拂つて借りて來たのは二十圓の家である。自らダットサンを運轉して移轉せしめたが、きふのまで月二百圓の邸に住つて居た良家の家族が家とは名ばかりのあばら屋に入つたのであるから家族は聲を出して泣き合ふのであつた。

荒井君は此の有様を見兼ねて當分の小遣にと八十圓の金を與へ仕事の斡旋をしようとしたが、仲々其の氣にならぬ様だ、其の内に道具類も皆失ひ赤貧洗ふ如く文字通り無一物とにまつたので、更に北鎌倉に七圓の家賃の家を世話し毎日白米や小遣を届けて居たところ、鎌倉の協和會事業の特志家として知られて居る谷正男氏（内地の人で荒井君とは無二の親友である）がこれを聞いて一角持ち度いと同情を寄せ二人は協力して、生活につかれ切つて居る猪越氏を勵まして居つた。

「落ぶれて袖に涙のかゝる時人の心の奥を知らるゝ」餘りにも變り果てた自分の姿に幾夜か泣き明した猪越氏もついに逆境と戦抜く勇氣を與へられ、荒井君の店の事務員として月四十圓で働く事となつたが、六ヶ月程経つて仕事も出來ぬのに面目無いと氣兼ねるので、更に荒井君は横濱の某新聞社の外交員に月給四十圓で斡旋し、奥さんも夫が生活と戦續て居る姿を見て奮起し派出婦に出ても良いと言ひ出したので、日給一圓二十錢で世話した。

こうして一年程勤めてゐる間に段々生活も樂になる様になり、一家は光明を見出し甦生生活を送つて居つた。

其後猪越氏は、知人の紹介で東亞〇〇會社へ月給八十圓で勤務する事になり、荒井君はお祝のために尋ねて見ると服裝が何一ツ無く困つて居るので洋服を早速買つて贈つた。暫らくすると、天津の所長に榮進赴任する事になり、家族は打揃つて荒井君の家を訪問し、今日あるは全く貴方の御蔭です、と涙ながらに感謝せられ、兄弟同様お交りを願ひ度いと、別を惜んだが、それからと言ふものは一ヶ月一回位の音信が届き新井君を喜ばせて居る。

よき日本人

その名も床しい、志貴野、高岡古城公園の鬱蒼たる木々の奥深く神鎮る、射水神社の拜殿前に、毎月一日と十五日の朝、十五歳位の男の子と、それより一ツ二ツも幼い女の子とを伴ふて、時計の針にも似た正確さで午前六時を期し參詣する中年の男をば、同社の宮司が認め、この敬神の念厚き人の姓名を知らんと、或る朝この三人が禮拜をすまして歸らんとするを、大鳥居の外に擁し、いんぎんに名をたづねたが、その男は之又いんぎんに答禮したのみで、無言の裡に倉惶として立去つて了つた。此の床しき人を探さむと宮司は、顔見知りの協和會役員に傳へたのでその人の相貌をきき、色々探してゐる中に、最近漸くそれは富山縣協和會高岡支會の金守範信君であることが知れた。彼は當支會協和事業促進の中堅的活動分子であることは、當地内鮮人の大半の知るところである

ので、日常の行動自體が、皇民生活であり、銃後國民の責務を遺憾なく果しつゝあるのである。今つぎに、彼の行動の一端を御紹介いたしたい。金守君の家族は、冬期は午前六時、此の外の時期は、午前五時半に、隣組に先んじて起床洗面を終へ、直ちに毎朝屋内の掃除を三十分前後で済まし、一家打揃つて神棚の前に額つき、うやうやしく「御神勅」と「御勅語」を奉讀するのである。いかに簡単なことでも、毎日勵行することは容易なことではないにも不拘、之を一日も缺かさず續行してゐる。半島の習俗から脱け切れぬ蒙昧な人や、思想の薄弱な半島人に對しては半日も費し喧嘩腰で日韓史を説き、時局を語る事が往々ある。彼は乃木精神には燃ゆるが如き熱意を持ち、同地乃木講の最良出席者で、乃木精神によつて彼の國體信仰を昂めてゐる様である。似て非なる愛國者や、名士振つた職業演説家が、彼の出席した座談會で國體認識の缺除を暴露され逃げ出したことも一再ならずである。金守君の長女（本年十三歳）が市立高女へ半島人としてこの四月晴の入學をしたのであるが、口頭試問に「常會」「皇室」「日支事變」のことに就いて名答をして試験官を驚かせたのも父の家庭教育と胸に燃ゆる國體信念を立證するものでなからうか。協和事業にも業務の餘暇をさいては努力して呉れる。協和會に於て企劃される指導方針は正確に半島人密集地域に行はれて行く。補導員も彼の熱情に引込まれて指導に熱中し茲に期せずして協和會員の質的向上が見られるのである。今日協和會員の住む所は内地人に先んじて祝祭日には國旗が掲げられてゐる。區域の誰もが皇國臣民の誓詞を暗誦し子供等までが國民協和の歌を歌つてゐる。座禪、講習會には若い者の間に伍して模範的な活動に終始し何時も講師達から「是ぢや内地人の講習會より立派ぢやないか」と三歎せられる。献金も度重なりその額二百數十圓に上つてゐる。彼は元々内地在住半島人の習俗を改良する爲め

には十餘年來死力を盡して戰つて來てゐるのである。協和會結成前五六年前より高岡協融會協朝會等の融和團體を作り尊い努力をつくしてきた。一時は高岡市半島人の多くの者が香具師と化し暴行、鬭争、博奕に明け暮れたこともあつたが、敢然と之等の人々を説き伏せて内地化せしめて來た。瘦身ながら彼の努力と誠は經濟的にも地歩も高め高岡ランル有限會社の監査役としてかゞやいてゐる。此の外筆にすべき幾多の事績あれども、彼の日常の言動は要するに「眞の日本人」たらんとする努力の現はれなのである。

血書の志願

山口縣協和會の報國運動が或は飛行機献納、勤勞奉仕など熱情の表象となつてあらはれてゐる時、下關市外岡枝村吉賀臺木炭製造業、金光康成（四〇）さんの長男金光政輝君（二〇）は、五年前朝鮮慶尙北道迎日郡杞溪面から父母弟妹や一家五人で内地に渡航、爾來家族が力を合せ木炭製造に眞面目な月日を送つてゐたが最近緊迫をつゞける時局を耳にするにつけ、又岡枝村からは村民に送られ萬歳々々の聲に嬉しそらに出征する勇士の姿を見て、自分も軍人として御國のために働きたいと強く決心したのでした。弟も妹も一人前になり父親の手助けが出来るから自分が居なくとも大丈夫だと右の小指を切り、白木綿に「以身報國」の文字を血書に認め、朝鮮陸軍特別志願兵に志願したこれを知つた父康成さんも我が子乍ら立派な心掛と勵したのである。豊浦署でも過去五ヶ年の成績も良好だし熱意に動かされ早速身分證明書をあたへ志願兵に關する手續などを親切に教へ、激勵の言葉をあた

へて門出を祝福した。

輸血奉仕

廣島縣協 會西支會草津分會青年部は昭和十五年四月青年部を結成せるが、同部員中より草津青年學校に通學中の草津南町蒲鉾製造職人李小述君(一九)外一名は、同年五月初旬頃同青年學校生徒が廣島陸軍病院に對し輸血奉仕を爲すこととなり他の生徒と同様血液検査を受け同年七月十九日季小述君は廣島陸軍病院に於て、輸血奉仕を爲したり。之を聞きたる同青年部長吉川武雄は部員と相計り、内鮮協和は血液の繋りより將亦銃後國民として戦線に御奉公申上げ得ざる我々協和會員としてせめて傷痍軍人へ血一滴にても奉仕を爲し、國恩に報ひたしと廣島陸軍病院に輸血奉仕方願出たる處同年十二月十六日血液検査の通知に接し、強健なる部員を吉川部長が選抜十二名を引率し検査を了へたるが

本年一月十三日	草津町	大原成一	二十二歳
" 一月十四日	同南町	朱水徳	三十三歳
" 二月二日		大原元一	二十歳 外一名
" 三月二十八日	同東町	吉川定雄	二十五歳 外一名

右の六名は何れも輸血奉仕を了したり。尙殘員は何れも身心を鍛錬し輸血奉仕の日を待つて居る。

率先窮行

金遠珉氏は郷里揚徳普通尋高等小學校を卒業し家事の手傳をして居りましたが大正八年樺太泊居町に於て興業會社に入社請負業に従事し同十年に北海道旭川市に渡り商業を営み昭和八年に現在の弘前市に來り料理業並に古物商に従事して居るものであるが、昭和十年弘前融和會の創立さるゝや會長に選ばれ日夜會員の指導に力を盡し昭和十四年四月弘前協和會支會の設立に依り副會長に擧げらる自ら諸事率先範を示し内鮮協和の實を擧げるべく日夜努力し、昨年皇紀二千六百年記念事業として豫算六、八〇〇圓を以て七拾坪の協和會館の建設を總會に於て決議さるゝや自らも相當額醸出し、昨年十二月朝鮮人修養道場として、竣功を見たり毎月一回朝鮮出身者を集合せしめ、國民精神の作興矯風教化の指導等自ら率先々頭に立ち會員を指導し内鮮一體に献身的努力を傾注せるため同支會々員の教養等斷然他支會を凌駕しつゝり。

學務部長が名付親

京都市中京區壬生大竹町に居住する高木光春君は、夙に協和事業の重且大なるに想ひを致し、本會の主旨に従ひ一般會員に率先して神棚を設置し、或は國防費を献金し居りたるが、之を他の會員にも實行せしめんと、自ら

勸誘に立ち同方面に居住する會員と神棚を設けせしめ、又國防献金に愛國の至情を顯現或は又、會員打揃つて勤勞奉仕に出動させる等業の範となり、協和事業のために、日夜努力して居れり。

就中次の二つの美談は特に全會員を感激せしめたり。

即ち過般本會主催にて京都府傷痍軍人療養所の整地勤勞奉仕決行するや、妊娠中の妻が當日午前二時頃、男兒を分娩し、終夜不眠不休にて之が世話に當り、その疲勞の未だ復せざるにも拘はらず、斯る奉仕に参加せざるは皇國臣民として申譯無しと卒先參加せり。此の事情を聴取せる本會職員は「歸宅して妻子の世話と休養を攝るやうに」と奨めたるも、本人は「出産は私事であり、奉仕は公事である。皇國臣民である自分は何で公を捨て、私事に就く事が出来るか」と頑として自分の主張を通し、終日整地工事に奉仕せり。

此の實情は後に至りて、本會副會長たる學務部長の知る所となり、非常に感激され、自ら該出生兒の名付け親となりて、其の前途の多幸を祝福する所ありたり。

又同人は自費を提供して、旅費を補助し會員を引率し、伊勢皇大神宮に參拜、敬神崇祖の觀念の涵養に務める等私事を捨て、公事に就かんとする、眞摯なる赤子としての、内鮮協和、銃後の善行は會員の範と爲すに足るものなり。

朝鮮式食器不要なり

和歌山市東田中町六七、金珠鎔氏(六二)は皇民促進は先づ内地式風俗習慣よりと右者一家揃つて從來の朝鮮式習慣より斷然内地式生活に改め實質的皇民化促進を計らんと現在使用中の朝鮮式眞鍮食器一揃を和歌山警察署に持參「私の家庭は今日から全部内地式風俗習慣に改めました其の記念として此の食器を國防献金にして下さい」と寄託せり。同警察署に於ては早速献金の手續を取ると共に一般會員の模範として讚へつゝあり。

半島爺さんが休閒地を開墾

和歌山縣西牟婁郡串本町、福島進一(七一)さんは今より十一年前土工として内地に渡航し來り現在に至りたるものなるが、昭和十四年より時局下に於ける食糧増産を計畫し食糧の自給を目ざして附近の荒れ果てた休閒地田畑約四反歩を毎日コツ／＼と老の手に鋤を持つて開墾し相當の收穫を見つゝ有るが、更に本年も同町橋杭方面で矢倉氏所有の休閒地田約二反歩を借受け開墾に着手本年植付に間に合せると、老の手で若きも及ばぬ意氣で毎日鋤を持つて精出して居る、此の有様に一般會員も刺戟され老人に負けてはと串本支會員は非常に感激し他府縣に比較して食糧難の本縣として食糧増産普及の上に大きな刺戟を與へたり。

警防團員として身を捧ぐ

春山輔勳君(二九)は、忠清南道草村面に生れ同地普通學校を卒へ昭和七年六月内地に渡來して埼玉縣北葛飾郡栗橋町へ住み、古物商を営み勤勉な生活して居るが常に内地人の親切な指導と分け隔てない兄弟愛に感謝の言葉を述べ、殊に支那事變勃發以來皇軍の活動に刺戟され所轄警察署長を訪ね、私は斯うして遠く離れた土地に來て皆様の厄介になり安心な生活の出來ますことは、これ皇恩の然らしむる所であり、御國の有難度いことをしみじみ知りましたが、私は兵役の義務がないので第一線の戰士として働いて御恩に報ることが出來ません。而して戦線に出たと同じ氣持で銃後の護りをして充分御奉公をし度いから是非警防團員として採用して下さいと、再三歎願したで警察署長も其の眞心に動かされ、昭和十四年四月一日栗橋警防團員に任命し、其の希望をかなへた所宿望を達せられた春山君は爾來規律嚴肅にして時局下重責ある警防團員として上司の命令をよく格遵し同僚とは相敬愛し、勤務勉勵なる爲め上下の信用極めて厚く、其の後警防團樞機の地位である警報部員に編せられ一般團員の模範とされて居る。

向上一路

群馬縣勢多郡東村大字神土、山本春吉君は足尾銅山自家用發電所設置工事の爲肩書地に於て就勞山本飯場を経営して居るのであるが、幼少の頃から非常に辛苦艱難の生活を送つて來た人で、内地渡來以來相當年月を送り、常に内鮮協和の必要を感じて居たのであるが、不幸にして少年の頃就學の機を得なかつた同君は日常の會話こそ

不自由はないが目に一丁字もないのを歎きつつあつた。文字を知らなければ日々の生活が不便であるばかりでなく、日進月歩の世の中から遅れて了ふことを痛切に感じ、本年二月斷乎として立ち上り飯場事務所の一隅を疊敷に改造「山本協和夜學寮」を開設し自分は勿論飯場内の半島勞務者の國語勉強の機關としたのである。山本君の場合は所謂四十の手習であり若い補導員の人達を主として、先生と仰ぎイロハから勉強を始めたのである。由來半島人は年長者に對して非常なる尊敬を拂ふ美風がある半面年長者は若い者に對しては甚だ尊大であり如何に結構な知識でも、若い者から年長者に教へることは失禮とされ、年長者亦若い者の意見は容易に採用しない弊風がある。斯る環境に育てられて來た山本君が若い者と同席で若い先生の教を受け孜々として勉強する純眞さと向學心の旺盛さには全く敬服させられる所で、學業も進むにつれ興味油然近頃は假名で何んでも書けるやうになり、大いに喜んでゐる。夜學は又毎夜の繁昌で近隣の飯場からも續々勉強に來ると云ふ。眞に結構なことである。

貧者の一燈

堺市耳原町、曹酒述君(三二)は、内地に來住以來土工に従事し妻子三名と共に暮した。貯蓄は少なかつたが、其の日其の日の生活にことかく様なことはなかつた。曹君は學問はなかつたが常に堺矯風會の會員として指導員等より時局の重大なるを聞きこれを深く認識しつつある時、偶々泉北郡百舌鳥村に於て日稼として就働し幾らかの勞賃を得ての歸り道炎熱焼け付く中を皇軍勇士の行軍に出逢ひ御國のため出征せらるる兵隊さんの勞苦を目の當

りに見た曹君は直ちに附近の水屋に飛び込み「アイスクーキ」を全部買ひ求め兵隊さんに一本宛配布し其の勞苦に感謝の誠を捧げた。

血書の日丸

福岡縣久留米市諏訪野町二丁目、崔學權君は昭和十三年六月朝鮮人陸軍志願兵令制定せらるるや、率先嚴密なる検査を経て第一回訓練生として京城訓練所に入所所定の訓練を受けてゐたが不幸病魔に侵され、一年半にして退所の餘儀なきに至り悲嘆に暮れてゐたが、病氣全快するや昨年二月より山口蒲團店へ店員として忠實に業務に勵みつゝあるが、かねてより皇軍將兵並に半島訓練生の奮闘振りに痛く感激し、彼は小使錢を貯蓄して慰問品を購入し、部内、高良神社神前に於て左手小指を切り「ハンカチ」に日丸の血書せる小旗を添へ警察署へ持參、前線宛發送方依頼し係員初め一般の人々に多大の感銘を與へた。

御眞影を守りて

名古屋市中區御器所町鳥食三四愛知伸鋼株式會社に勤務の李龍化氏は、妻子四名と共に平和な家庭を營み居りたるが、偶々昭和十四年七月六日午後二時十分頃居宅に隣接する半谷工場より出火し、猛火の烈風に煽られ見る

見る裡に附近を灰燼に歸せしめ、李龍化氏宅も類焼の厄に逢ひたるが、其の時勤務先にて之の火急を聞き、急ぎ家に歸りたる時既に家は猛火に覆はれ、近か寄れざる狀況に在りたり。李氏は敬神崇祖の念篤く、御皇室の御仁慈に感佩し、自室に、聖上陛下の御眞影を奉祀し在りて日本人として、御眞影を焼失するは、不忠の極みなりと、固い決意に燃へ崩れんとする家の中に拚身搬出せんとしたるも、猛煙の爲息づまり、容易に近か寄れざる狀況に在りたるが、益々其の近くに燃へ行くを目の邊りに見るを忍びず、今は之れ迄と必死に危険を冒し飛び込み遂に身に大火傷と數ヶ所の傷を負ひたるも尙も怯まず漸く御眞影を持ち出し、當然燒毀の狀況に置かれ在りたるを李氏の強き國家的意識に依り、無事保全するを得たり。如斯は眞に皇民化の具現なると共に協和會の指導精神を實踐したる好事例と認めらる。

債券購入

昭和十五年三月五日より賣出しの第十六回支那事變貯蓄債券（五圓券）百枚を購入方二百五十名の會員に督勵せるに會員は克く趣旨を理解し、國策に協力せむとの愛國より目標額の二倍たる二百十枚金額にして一千五十圓の債券購入をなし關係者は勿論一般民を感激せしめた。（本事例各府縣に多し）



員會府都京るけ於に社神國護(上)
員部人婦會和協縣口山(下)

— 銃後美談 —

六〇

白衣勇士慰問

群馬縣太田支會婦人部の朱學燒さん他十六名は前橋市所在陸軍病院に療養中の白衣勇士のお役に立ちたいと六月三日病院に到着、九時から午後一時半迄洗濯の奉仕をやり、普通なら三日もかかる程澤山の洗濯を要領良く綺麗に仕上げ、終つてから白衣勇士の各室を隈なく慰問し切花を贈り、勇士の方々は勿論病院關係者から多大の感謝を受けた。

神木献納

群馬縣高崎支會は全員一般に敬神の念厚く平生神社参拜、境内清掃等熱心に行つて居るが今回前橋市に群馬縣殉職警察官警防團員合祀神社の建立せらるるや、補導員成澤正一君他會員五十六名相圖り淨財三十圓五十錢を醸出し、ヒマラヤシーダー樹高さ二丈周圍一尺のものを献納することとなり、荷造から運搬迄全部會員の勞力に依り三里の道を恙なく同神社境内に納め神社當局を感激せしめて居る。本年四月七日の美學である。

この事實を觀よ

— 銃後の守り —

六一

若松協和會の理事たる高山徹氏より、南總裁に宛て、半島婦人の銃後活動狀況を知らされました。

〔前略〕——昨十七日は若松在住の半島出身の愛國婦人會員三十餘名と共に〇〇陸軍病院作業奉仕に來り候處、半島婦人の熱誠は内地婦人の二日分の作業を一日にて仕上げ、病院當局者を驚かし、作業中危篤傷病兵のため輸血の必要ある旨傳へられ、志願者を募集仕り候ひしに、殆んど全員が希望したるより、私は作業奉仕に伴れ來り居るに輸血させたとすれば、或は親や夫の誤解ありてはと案じ「作業奉仕のため來たから、輸血まですることは誠に結構な事ではあるが、親や夫に對し、叱らるゝ心配はないか、強ひてお勧めはしないよ」と再三念を押して申し候處かれらは異口同音に「私共の血で、有難き傷病兵さんの尊き生命を救ひ上げることが出来ますならば誠に結構です。四五日は寢ても良いです。親や夫も却つて喜びますから、是非志願させて下さい」と申し私共を泣かせほんとに私は涙なしにはこの返事は聞き得ざりし次第に有之候、而してその中から、特に壯健なもの十五を選抜して係官のところ同伴致し候ところ、先着の内地人の血液型が合格し、而も急を要したる由にて、我々は間に合はざりしは残念至極の至りに候へども、係官も半島婦人の赤誠には非常に感激され、厚く禮を述べられたる次第にて候。

同伴の婦人はいづれも労働者の家庭のものにて、學校教育を受けしものは僅少にて國語は、私の話八分程度は全員が理解し得るものに有之候。當日の服装は和服若くは簡單服の上にエプロンを着用し、朝鮮服は三名だけにて、内地婦人との見分けが出来ざりし程にて候、この事は本日（二月十八日）の朝日新聞にも記載されり候。

若松協和會にては四月頃から無學の半島婦人に對し、尋常一二年程度の國語教育を施す計畫にて候。（下略）

空の守りは固し

大阪市住吉區庭井町二番地土砂販賣業宋寅出氏（四二）は昭和四年六月現住地に渡來土砂採取、販賣を業とし現在にては相當の蓄財をなし附近住民は元より得意先（主として内地人）よりの信望厚く管内在朝鮮人間の有識者として一般より認むるに至り今日迄の篤志行爲も數度に及びたるが、昭和十三年七月十二日より施行せらるゝ中部防衛地區防空演習に先立ち、防空思想普及の爲電燈カバー數百枚を私費を投じて購入、近隣者主として庭井町、淺香町、刈田町、杉本町在住の朝鮮人に之を無料配布し、朝鮮人にして係官の手續を煩し悔を後世に残さざる様努められ度しと解き義務觀念の向上に努めつゝあるが、其の行ひは少なるとも朝鮮人間に及ぼす影響大なり。

防空訓練美談

富山縣新湊町三ヶ新二八五富山縣協和會新湊支會員佐伯良吉氏（三七）は、新湊警防團第三分團警防員として昭和十三年第四次防空訓練に従事中十月二十八日午前七時三十分頃妊娠中なりし妻松井ゆき子が急に陣痛を催し、男児を死産したるに不拘一切口外せず家庭より警防の重大なるを認識し、警防の職務に盡力し居たる所此事が同

日午前十一時三十分頃附近民より分團長の耳に入りたるを以て分團長朴木留次郎氏は再三再四歸宅を促したるも警防團員たる以上は家庭よりも警防の職務は重大だと言ひ頑として應ぜず、却て警防團本部と第三分團事務所（此間約十八町）其警報に情況等の傳令に従事し引續き三十日迄の訓練を終了し、警防員としての任務を果し此死産兒の葬儀準備は附近民に依頼し、訓練終了したる三十日正午に執行したるが其の犠牲的精神は一般より賞讃の的となりたり。

一つのももしび

梅雨も間近な蒸し暑い六月五日の朝まだき、廣島市福島町の方面委員杉本秀一氏の宅を訪れたまだら若い一半島婦人があつた。折から店場（杉本氏は呉服商を經營して居られる）に出たばかりの杉本氏に向つて、

「大將にお願ひがあるのですが……」と何か用ありげな様子である。

「何の用かね」その用件を大方想像しながら——といふのはこの婦人の父が去年の四月頃長い病氣をして死んだ時、醫療保護等種々めんどうを見てやつた關係上家庭の事情をよく知つてゐるので、又誰か病氣になつたんだなと思ひつゝ杉本氏は鋭いけれど何處かやさしみのある視線をその婦人——吉村スミ子さんに投げた。

「あの、家のお母さんがお金を少しばかり献金したいのださうですがどうしたらよいでせうか。それを聞きに来たのです」

「お金を？ どれ程？」意外なその言葉に杉本氏の目玉がくりりと廻つた。無理もない。たつた一年前この女の父、金を献金したいといふ女の夫を長い間あんなにまで精神的には勿論物質的に世話をしてやつたんだもの。

「百圓程あるんださうです」

「百圓？」いよ／＼驚いてしまつた。杉本氏はしばしば聲も出ない態である。

「百圓と言へば大金だ。あんなの家の全部であらう。それをみんな献金しなくていい。半分でよい。いやその半分でもよい。お金よりもそのやうな心の方がいいのだ。心が大切なのだ」しばらくして杉本氏はスミ子さんにこう言つた。

「でもお母さんがさう言つてゐるんですから」

スミさんがな／＼聞きさうにないので、

「おや、お母さんと呼んでおいで。私からお母さんに話をするから」と杉本氏は母を呼びに返らした。

やがて母なる人、曾つて杉本氏が色々めんどうを見てやつた男の妻——はつきり言へば廣島市福島町百五十三番地に居住する崔道益さん（四十七歳）がスミ子さんと一緒にやつて來た。

「私は毎朝四時に起きて齋戒沐浴し、先づ 天皇陛下を遙拜し奉りそれから日本の兵隊さん達の武運長久をお祈りしてゐます。それは私のやうな者までがこんなにあらかな、こんなに有難い生活をさしていたゞいてゐるのはみんな 天皇陛下とそれから兵隊さんのお蔭であるからです。ですから私は今迄一生懸命働いて蓄めた百圓のお金をみんな献金します。どうしてもみんな差上げるのです。」

朝鮮語であるけれどスミ子さんの通譯によつてこれを聞いた杉本氏の眼頭が何時の間にか微に濡れた。「あゝ、内地人でもこんな心を持つてゐない者も居るのに、無學文盲なこの半島の一婦人が持つてゐてくれるか。嬉しい。日本は強いぞ。」

軍神杉本中佐の令兄たる、そして今現に長男を遠く南支戦地に送つて居られる杉本氏の胸が、貧者の一燈ではない實に貧者の萬燈とも言ふべき尊くも美しきこの事實に感激に溢れたのは當り前の事である。杉本氏は支度もそこそこに母娘をつれて電車の人となつたのである。

今日は呉服商組合の理事会を招集してゐる日である。(氏は同組合理事長の要職に在り)けれど儼然たるこの事實の前に、大きなこの感激の前に、それは餘りに小さい問題であると考へた杉本氏は二人を伴つて西警察署を訪れた。そしてこの一部始終を東行政主任に語つて協和會長より早速表彰するやうその取計方を依頼した。それを聞いた東行政主任をはじめ並る署員が感激せない筈はない。

「えらい。その心を何時迄も捨てないやう……」

東行政主任の讃辭を身に受けつゝ杉本氏につれられた二人は西練兵場を廣島聯隊區へ急いだ。こゝでも聯隊區司令官の感激と賞讃のお言葉聞いたのである。

それから師團司令部へ、經理部へ行つた杉本氏は其處で委細を語りこの事を師團長閣下にお傳へし「出来れば本人を引見してお褒めのお言葉をやつて下さい。」と係りの人に依頼した。

恰度師團長が不在だつたので師團副官が喜んで引見され、

「そのお金はみんなでなくていい。たゞ差上げようとするその心持があればいいのだ。さうした心を持つてゐるあなたの様な人が居ればこそ日本の國は大磐石だ。」と溢るゝ熱誠を以て褒め讃へた。

「しかし本人の切ない希望ですからみんな献納させて頂いて下さい。」杉本氏の言葉に強いて斷りきれない師團副官は「それでは經理部の方へ御納め下さい」と答へられた。

再び經理部の方へ行つた崔道益さんは懐から財布を取出した。その場合誰でも想像する事は百圓札一枚か、或は十圓札十枚かゞ出されるであらう事である。しかるに……あゝ、係員の机上に出されたお金は僅か三枚の十圓札とあとは五十錢と十錢・五錢白銅貨も澤山あるではないか。

はじめ杉本氏の話で感激した居あはせられた將校・下士官の係りの方も、美はしいこの光景にしばし聲も出ない有様である。杉本氏自身が今朝からの感激を更に一層大にした事は言ふ迄もない。

あゝ美しきこの光景!! この行爲!! 一片のこの物語を聞く誰でもが其處に皇國日本の搖ぎなき姿をまぎと見る事が出来るであらう。

「又百圓たまつたら献金させていただきます。」崔道益さんは歸る途すがら杉本氏にかく語つたといふ。——その行爲・その心根・それは唯一人の崔道益さんで終つてしまふものでなく、やがて必らずや二人の三人の・否十人二十人の崔道益さんが出るであらう事を信じるのは一人筆者だけではあるまい。

この美はしき行爲を、この溢れる感激を世の多くの人達の心にお送りしたい爲、敢へて秃筆を執つた事をお詫びしつゝペンを擱かんとする筆者の脳裡に、何時か何處かで聞いた事のある

「まづしめ捧げん一つのともしび……」何にもまされる一つのともしびといふ歌の言葉かせつ／＼として浮んでくる。

虎造を招く

昭和十五年十二月栃木縣協和會宇都宮支會にては、昨年末浪曲界の大家廣澤虎造を招き、〇〇〇陸軍病院に至り白衣の勇士を慰安した。

神社修築費に

福岡縣朝倉郡寶珠山村尹昌植氏は、豫而協和會補導員として會員の指導誘掖に當り、人望厚き者であるが、同村鎮座高木神社の屋根が腐朽して居るのを見兼ね、同村居住會員に諮り屋根葺替費用の據出を申合せ、一人五十錢乃至拾圓宛計五十四圓を纏め、九月二十三日役場に村長を訪れ、寄附申込を爲したるに村長は有難く受納すべしとして感謝の意を表し、之を聞き傳へた關係方面をして痛く感激せしめた。

皇軍武運長久祈願全國自轉車巡拜

大阪市東淀川區南方町三七三萬代牛乳店々員、金澤住材君(二五)は、昭和十一年四月單身内地に渡航前記萬代牛乳店に被傭の傍ら私立北陽商業學校に通學、昭和十五年三月同校卒業専ら同店々員として就働しつゝあるものなるが、日支事變勃發するや愛國の至誠に燃ゆる念抑へ難く逸早く從軍志願をなさんとせしも半島出身なるが爲め、素志を果すこと能はざるを以て從軍を諦めたるも、同窓の内地學生中多數召集され且亦現傭主も名譽ある應召に接し、君國の爲め第一線に立ちつゝあるの現状に鑑み、座視するに忍びず、せめて全國の國幣社以上の大社を巡拜し皇軍の武運長久を祈願せんものと企圖し、父兄並に雇主側の諒解を求め、昭和十五年七月二十七日より内地を始め朝鮮臺灣樺太の各地を巡拜し、本年四月二日歸郷したるが同君の巡拜に感激した朝鮮金川警察署長より左の通りの報告を齎らせた。

金澤住材君は志願兵に出願せるも年齢超過のため合格出來ず、住所地に於て第一線の將兵の勞苦を思ひ神社に日參し來たる處、奉公先の牛乳店主萬代氏の北支出征より無事歸還せるに感ずる處あり、日本は神の國にして此の國を守護せらる全國二百三十一の國幣小社以上を自轉車巡拜を思ひ立ち、國旗並海軍旗各一流を携行七月二十七日住所地を出發表日本より北海道樺太を経て裏日本に巡り下關より十二月七日釜山に上陸、大邱神社參拜途中なるを判明し、本名は旅費として毎月奉公先萬代店主より四十圓の送金を受け居る由、内地は比較的氣候良きも朝鮮は向寒の砌り未だ夏の服裝にして手袋も使用せず、只身は神の加護に任ずるのみと語り誠に敬服せざるを得ざる處あり。全國を巡回の上大阪へ歸り十三橋署長に報告の上、國旗及海軍旗は各々陸海軍に收め民草として義

務を幾分でも果したいと洩せり。時局柄本名の如き奇篤な青年の壯舉に對し一般部民は何れも感激し居れり云々。

白衣の勇士を神都へ招待

内地で安らかに生活の出来るのは全く兵隊さんのお蔭であるとか心から皇軍に感謝してゐる半島出身者の縣協和會宇治山田支會が招待の陸軍病院にある白衣の勇士〇〇〇名は堀大尉に引卒されて、六日午前九時九分省線山田驛着で盛夏の神都を訪れ、宇治山田市及宇治山田署並に協和會宇治山田支會幹部の出迎へを受け、驛頭で「暑いによりこそ」と感激の挨拶を交して一行は直ちに徒歩で外宮に參拜、次いで電車で内宮に至り參拜して再起奉公と戦友の武運長久を恭々しく祈願した後再び電車で引き返し參宮食堂で和やかに午餐を共にして慰安會場の神都公會堂に入り、午後零時五十分から宮城遙拜、皇軍將兵並に英靈に對し黙禱を捧げ、主催者の挨拶があつて演藝に移り宮川清明女學校生徒及び二葉會員の舞踊「太平洋行進曲」ほか八場面、木下旭昭師の筑前琵琶「伽羅のかぶと」清明女學校生徒の歌謡曲「興亜行進曲」ほか四曲、星野道三氏の詩吟、山田檢番藝妓の手踊り三場面浪曲などに興じ、病める身の痛みも忘れて歡をつくされ、協和會員の赤誠を十二分に受けて午後三時半頃盛況裡に終了勇士は同五十八分山田驛發で歸院した。

決意は固し

和歌山縣協和會々員正會員約五千名は何れも興亜奉公日に會員の節酒節煙斷行、節約金の一部を國防献金に、一部を縣忠靈塔建立資金に據出することに決し、昭和十五年四月一日より毎月實施し現在までに醸出せる國防献金參百貳拾圓、縣忠靈塔建立資金醸出貳百拾餘圓に達し、大日本帝國に生を享けし難有さを深く肝に銘ぜしむると共に身命を賭して第一線で活躍する皇軍將兵の勞苦を偲び更に眞の皇國臣民たらんとする愛國心を愈々昂めつゝあり。

勤勞奉仕

埼玉縣岩槻支會員二十三名は紀元二千六百年建國祭の佳節を大いに意義あらしむるべく昭和十六年二月十一日午前五時岩槻町御社久伊豆神社集合

- 1、神社參拜
- 2、榎原神宮遙拜
- 3、支會長訓示

の行事を執行した後、午前五時三十分より岩槻町郷社久伊豆神社參道約百五十米の間は非常なる濕地にして冬は

常に泥濘の爲め參拜者は歩行に足首も滑る悪路に困難を極め、聖戦下同神社に戦勝並に出動將兵の武運長久を祈願する者の困難目に餘り放置するに忍ばざるに依り協和會員相計り、半島人銃後の行事として岩槻町製油業村田工場より石炭殻を貰ひ受け貨物自動車を以て十五臺運搬泥濘區間に之を敷詰め參道修理を行ひ、午前十時三十分終了し、當日の建國行進もよりよく行はれ尙其の後完全なる參道となり非常に町民から感謝を受けつゝあり。

互に扶けつゝ、國家のために

張禹完君(二五)は福島縣石城郡内郷村磐城炭礦株式會社に勤務中の者にして友人朴相徳君(二五)は昭和十四年十月九日入山稼働中の處昭和十五年六月十二日坑内作業に従事中偶々石炭車の頓覆事故に依り其の下敷となり、左脛骨折の公傷を負ひ爾來半歲に渉る治療の結果、最近漸く接骨全治したるも久しき病苦生活のため受けたる精神的打撃は再び炭礦稼働の氣力を失はしむるに至り昨今頓に懷郷歸鮮を希望し、取計方を會社に申出中なることを聞知し、友人の心境に同情を寄せ氣分を轉換せしめ以て歸鮮を思ひ止まらしむべく、他の同僚と相諮り妻帯を奨めたり。

然るに友人朴相徳君は貯蓄無き理由のため應諾せざりしを以て、張禹完君は「君は不幸にして大怪我をなし再び炭礦稼ぎを厭ふ氣持は克く判るが然し現在傷も全快して居る身體であり、我々は共に銃後産業戰士として第一線の皇軍の勞苦を偲び共に國家に對し盡忠の誠を盡すべく遙々内地に來て其の一役を擔つて居るのだ其儘歸郷

することは國民として恥ではないか、そして若し歸鮮を思ひ止まり此處に於て働くことを誓ふならば不肖我々は同僚の友情に訴へ結婚費用位は調達するが如何」と熱心に諷意を促したるに之が熱意に感動し、承諾を與へたるがため、自ら發起人となり同合宿内に寄宿中の一同(二二〇名)に對し右の事情を訴へ賛同を求めたるころ一同之に共鳴し、各々應分の寄附金を醸出し合計七拾八圓に達したり。

張禹完君は進んで媒酌人となり慶尙南道河東郡金南面露里五出身同社採炭夫李尙律氏の五女タイ子さん(一七)を花嫁候補として斡旋したるところ日出席談整ひ昭和十六年二月十六日右花嫁宅に於て結婚式を舉行し、之に要したる費用四拾圓を除き殘金參拾八圓は同人名義の貯金通帳となし、一同の名義を以て新夫婦に贈呈し、更生の産業戰士のために健康と多幸とを祈りたるものなり。

我等も日本人なり

昭和十六年二月北海道空知郡三笠山村東邦炭礦株式會社彌生礦業所坑内坑道より自然發火の事故發生したる際會社側に於ては半島勞務者の動搖を憂慮し、専ら内地人熟練坑夫に依りて密閉作業を施行せるも、作業連日五日間に亘るも終了せず爲に内地人坑夫は心身共に疲勞し、作業繼續困難となりたるに之を聞知せる半島人勞務者四十名は吾々も大和魂を有する日本男子なり、傍觀するに忍びずと自發的に使役方を申出で、連日に亘る密閉作業に従事し遂に完全に消火し以て銃後産業報國に盡瘁せり。

産業戦士の責重し

事變下勞務動員計畫に基く移住半島人の時局認識も漸次向上せられ、昂揚されて相當注目すべき變化を齎し、國防献金或は銃後活動を續けつゝあるが、福岡縣嘉穂郡穂波村柴市天道炭坑採炭夫趙奉福君(四四)は、昨年一月六日父趙根鎬氏死亡の訃報に接したるも「父は八十二歳の高齡にて死亡したので何も思ひ残す事はありません。生前内地渡航後は當局の斡旋の恩に背く事は出来ないと訓へられてゐたので、父の死亡は悲しい事ではありませんが、重大な産業戦士として渡航して来た以上自分が歸れば一同の志氣にも影響するので歸る事を止め、職務に精勵します云々」と洩し歸郷せず引續き専心稼働中である。

戦線の勇士と共に

福岡縣嘉穂郡款田村明治炭坑吳三善君(三五)は昭和十四年渡來し稼働中であるが、昨年二月二十二日母死亡の電報通知に接したが「郷里を出る時から決心してゐたので母の死亡を運命と諦め時局下石炭増産の爲働きます。取敢ず母の靈前には私の働いた賃金から拾五圓を送つて供へて貰ひましたが、事變の解決した曉には錦を飾つて歸郷し母の靈前に御詫びする心算です夫れ迄は一生懸命働きます。」と語り引續き銃後産業戦士として仕事に勵んでゐる。

である。

力を合せて

愛媛縣越智郡津倉村古物商大島秀雄、同村在奉の兩君は昭和十五年六月三十日午前七時頃襲來の豪雨の爲同村仁江川の増水甚敷縣道決潰を知るや逸早く現場に急行村民に卒先、土俵の作製と運搬に當り防水に努め更に村民並警防團員と協力、農作物の被害防止に盡力する等身を以て内鮮一體の實を擧げ、其の奇特なる行爲に對し部民の感謝と賞讃を受けたり。

日本人としての務め

山梨縣西八代郡大河内村所在日本輕金屬株式會社に就勞中の集團移住勞務者三宅三郎君外三十六名は、昭和十五年八月五日〇〇陸軍病院に白衣勇士を訪れ、心からなる慰問をなし又武田神社に參拜し皇軍の武運長久の祈願をなしたり。

武運長久祈願

長野縣協和會伊那富支會に於ては、昭和十五年十月二十六日代表會員二十一名を出征軍人武運長久祈願の爲、諏訪郡中洲村官幣大社諏訪神社に派遣し出征軍人武運長久祈願をなしたり。

護國神社造營資金

今年一月秋田縣協和會南秋田支會に於ては護國神社御造營資金の献納運動を提唱したる處、縣下會員何れも自發的に醸出申出豫期以上の成果を見其の金額壹千貳拾六圓參拾錢に達したので同社の石燈籠一對献納せり。

刑務所の中より

去る八月末警視廳内鮮課を通じて本會へ金五圓也の献金があつた。これは小菅刑務所收容中の〇〇〇〇〇より特に協和事業に對して献金したものであつたが、その献金に至つた動機は左の感想文の如く全く半島同胞の至誠に感激して内鮮一體化を衷心より希ふ心の聲とも言べきであらう。

昭和十五年九月三十日

東京府協和會長岡田周造殿

小菅刑務所

本月十九日付御書面を以て御照會に係る當所收容者〇〇〇〇の内鮮協和事業の基金として金五圓を献納致したる動機は別紙本人の感想文の通り、一は半島人の親切なる心と、二は半島人の愛國心とに感激したるものに有之御參考までに感想文を相添へ及回答候(後略)

感想文

献金の動機

齋藤道雄(假名)

私は以前酒醬油味噌等の醸造職工として又は土木の人夫として此處彼處に働き歩く中に工場や工事場で朝鮮や支那の人と交際するやうになりました。其の中にある町で半島出身の山本某といふ人と知り合ひになりました。子供の多いためか生活は餘り樂ではなかつたやうです、しかし至極眞面目な人で朗らかに働く人でした。私の身の上に非常に困つた事が出来た時、早速見舞に來てくれたりいろ／＼世話してくれました。其の後私も山本君のために出来るだけつくして上げました。山本君は口癖のやうに、僕達は日本のおかげで、かうして安樂に暮らしてゐられるのだ、だからお國の爲に働かねばならぬ。」といつてゐました。其後しばらくして仕事の都合で山本君と別れなければならなくなりました。現在では何處に居るか住居も判りません。この山本君の美しい心は私を非常に感激させました。私もこれからといふものは半島人は皆このやうに國を思ふ立派な心の人であると思ふに至りました。

今度大罪を犯して小菅刑務所に收容されて見ますと、こゝにも亦半島の人も居りますが眞面目に務めて居る人が多いやうです。その中の或る人から『お國に御迷惑をかけて申譯ないことをした』といふやうな懺悔の言葉

を聞いた事があります。同じく收容されてゐる朴烈さんが立派な日本人に心の底から成り切つたといふ話を聞きました。私はこの時どうしても朝鮮の人々に日本の本當の心を理解させて内地と半島とがしつかりと一つになることが必要だと痛感して當時僅か乍ら協和事業のために寄附致しました。昭和十三年三月頃だつたと思ひます。其の後も出来るだけ寄附を致し度いと思つて居りました時、今度少々賞與が溜りましたので寄附を願ひ出た次第です。私の寄附したお金は恥しい程ですがこの心を汲みとつて戴きまして内地と朝鮮とが心の底から融け合つて興亜のために邁進するを祈つて居ります。

優しき赤誠

可憐少年の祈願

京都府北桑田郡細野村字上の區在住の朴周伯氏二男朴杜根君は、村内細川小學校在學中にして品行方正學力優等常に模範學童として校内よりの信望篤き兒童であるが、今事變發生以來四ヶ年間に互り毎日拂曉同村の氏神たる春日神社に参拜して深く皇國の隆昌と皇軍の武運長久並に戦傷病者の快癒祈願を續け來り、未だ一度も怠つたことなく、その熱意は村民一般より賞讃されつゝあり。

軍國少女の姿

東京市深川區濱園町一〇番地千巳娟さん(二三)(父千光祐氏)は、十四年の六月事變三周年記念日を目の前にして感ずる所があり、両親より毎日貰ふお小遣ひ貳錢の裡より一錢宛貯金して軍部の關係筋に献金する念願を樹て之を父母に話した所、お父さんもお母さんも、大變感心してはげまし、母の榮順さんより白い布で貯金袋をつくつてもらひそれより毎日一〇〇一錢宛貯金を續けて丁度滿五百日目の十五年十一月十四日、壹錢銅貨五百枚を洲崎支會を経て陸軍省へ献納した。

少年の眞心

愛知縣豊橋市在住佐々木高雄氏四男佐々木澄夫君(一三)は幼少の頃小兒癩痺に罹り、左足の自由を失ひ不具の身であるにも拘らず、現在市内松山小學校第六學年に在學し勉學に勵んで居ります。今次事變の發生するに及び、假令半島にも志願兵制度の施行せられても不具の我が身は國家の干城として働くことは出来ない、町内等より出征者のある際は努めて歡送をなし、或は又學校よりの代表として傷病の歸還軍人を豊橋驛頭に迎へ、また第一線に奮戦苦闘せられつゝある勇士に對しては能ふ限りの感謝と、眞情籠めたる慰問狀とを送り、或ひは零細なる自己の小使錢を節約しては慰問の品々を買ひ、之を前線に發送尙亦風雨の日も厭ひなく、日曜の度毎に松葉杖に身を托しつゝも、陸軍病院に直接白衣の勇士を訪れ、心からなる慰問を續けて居りました。その篤行に付いては夙に學校當局は勿論、之を傳へ聞く附近町民の悉くが感激賞賛して居りました。分けても本年初頭第一線の將兵宛に不具の身の男子と生れ國家の干城として御奉公を爲すことが出来ません。どうか私の分も共に御國の爲立派な働きをして下さい」と言つて、自己が不具者なるの苦衷を訴へ、子供心にも國家を憶ふの眞情言外に溢るゝが如き赤誠籠れる慰問狀を發送しましたが、之が偶々市内松葉町より出征せる大久保別夫君の手に入り、同郷にして且は前記の如き自らの不具を訴へ、二人分の御奉公をと只管に願つて居る文面は、童心乍ら而も朝鮮人兒童にして、斯くの如き忠君愛國の赤心のあるのに、痛く同勇士を感謝せしめ、折返し、吾も豊橋市出身であるから、

武運ありて他日郷里に歸還す日があつたならば、義兄弟となつて波荒き世も共に手を繋ぎ合つて渡りませうと勵まし且つ不具の身も心次第によつては世界人類の大恩人である、南洋の土人にすら神とまで尊敬さるゝ様になつた、野口英世博士の如くにもなり得る、須らく之が幼き日に學ぶべしとして、激勵文に「己が給與の一部を割いたものを、學資の一助にも」と金十圓を添へて來ました。砲煙彈雨の巷に馳驅しつゝあり乍らも以上の如き誠心籠れる返信激勵に接したる佐々木君初め家族の者一同は、深く感激し「斯る尊き御金を私するは勿體ない」と言つて即日文と共に右勇士の留守宅を訪問、前後の事情を打明けて其の金子を返納しようとしたが、勇士の嚴父は息子の心情を酌量してそれを受けないので、止むなく慰謝の言葉を述べて辭去し、該金を有意義ならしめようと其の歸途市役所を訪れ國防資金の一部へと獻金方申出た。

前線の勇士様へ

兵隊さんに申上げたい事が御座います。僕は今年入學して一年生になつたのも學校へ元氣良く行つて居るのも皆戦地に行かれた兵隊さんのおかげでございます。戦地に行かれた兵隊さん、僕もおほきくなつたりつばな兵隊さんになります。僕は此の間「お父様はなぜ兵隊さんになれないの」ときゝましたがお父様は「お父様の若い頃は兵隊さんになる資格がなかつたのだが、今では誰でも勉強さへすれば立派な兵隊さんになれるのだ。お前はりつばな日本人だから早く大きくなつて兵隊さんになりお父様の分も一緒に働いてくれ」といひました。僕はお

父様にこのことをききますとうれしくてたまりません。其の時に僕はお父さんに戦地について居る兵隊さんに慰問袋を出したいと申しますと、それは良い事ですと申された、僕は時々お母様に一錢づつ貰つて、ちよきん箱の中に入れて居たのを出して見ますとわづか七十三錢でありましたが、僕がこれだけでは少くないと申しますと、お母様がお前が慰問袋を出すならお母様もたして上げませうと申しまして、金二圓三十二錢をたしましてこれとお前の分とあわせば三圓五錢になると申しましたが、其の時にお父様も出しますと申して金一圓九十五錢をだしましたので、合せますとちやうど五圓になりました。戦についておられる兵隊さん、どうか少いですけれどこれを慰問袋としてさし上げます。(富山縣協和會伏木支會 方大虎)

銃後協和女性の鑑

埼玉縣秩父町協和會員田中コトさん(蘆琴女)は夙に會員相互の親睦を圖る爲婦人部を組織し自ら部長として活躍して居りましたが、總會の席上に於て廢品回收奉仕を實施し銃後婦人の練成に努むる事を協議して一日の(興亞奉公日)を廢品回收奉公日と定め當日は附近町村の廢品回收を行ひ利益金全部を銃後々援事業資金に寄贈することを申合せ一般町民に之が理解を求むるため、趣意書五千枚を作製し秩父町全戸に配布し、第一回廢品回收奉仕日には部員十一名出動し回收に努めた結果純益金八拾四圓參拾五錢を得て即日愛國婦人會秩父分會銃後々援事業資金に寄附した。尙コトさんは自らも金五拾圓を愛國婦人會勝山支部に寄附し有効會員となつた。又同女

は部員を勵まし毎月一回早朝町縣社秩父神社の境内清掃に努めて居ります。又出動將兵の歡送迎には自ら風雨の日と雖も一日も缺くことなく部員を誘ひ送迎するなど努力して居ります。

右コトさんの如きは協和會員中誠に模範的婦人にして一般より推賞されつゝある。

十 錢 貯 金

京都市右京區西院花田町四〇番地車仁五氏の妻、李蓬萊さんは肩書地に於て、反物商を營んで居る者であります。が、今事變勃發するに及び「自分達一家の平穩に稼業を營むことの出来るのは之れ偏に第一線に活躍せらるゝ皇軍將兵の御蔭なり」と痛く感謝の結果、何等かの方法に於て之に報ひ、銃後奉公の一端を果さんものと意を決し、爾來「一日十錢貯金」を勵行し、昭和十二年八月より現在に至る迄、毎月參圓宛を國防獻金として、太泰支部に寄託し、獻金を續けつゝあり。

銃後協和婦人の歩は固し

埼玉縣川口市居住半島婦人七十五名は國防婦人會川口支會第五分會に入會し、川口市内出征入營兵の歡送迎には内地婦人に伍して國防婦人會の標を掛け手には國旗を持つて軍人の勇姿に接し、其の行還を旺にし或は一同揃



(上) 護國の英靈に心からなる黙禱(神奈川縣婦人會員)



(下) 僕等も一役買つて(兵庫縣)

つて縣社川口神社に參拜して皇軍將兵の武運長久を祈願し、又は出征遺家族の慰問を行ふ等出征軍人並に其の遺家族に感謝をして居るが又一面私達は内地婦人と共に銃後を守つて行くには時局の認識、言葉、文字、生活等に於て未だ啓蒙しなければならぬ點が多いとし、警察署員、市役所吏員、國防婦人會役員等を招いて時々講習會座談會を開いて日本婦道を究めて銃後活動に精進しつゝありて、一般市民は半島女性の此の眞心に痛く感動して居る。殊に昭和十五年二月には代表者十數名を○陸軍病院に傷病兵慰問として派遣したが院内娯樂室で、トラヂ、アリラン、失き母戀し、パンア打鈴、滿洲娘、愛馬進軍歌

其他數曲の歌舞を爲し傷兵の慰安をしる所は豫期せざる傷兵の喝采を博し非常に喜ばれたので、國を護つて傷兵に拙い歌舞を觀て頂いたのですら、光榮であるのに喜んで貰つて申し譯ないと一同は感涙咽び、次の慰問方法を考案中である。

幼 年 の 献 金

和歌山縣東牟婁郡宇久井村大字宇久井中村文吉氏(鄭府鉉)長男楠雄君(六)は宇久井村幼稚園に在園中のものでもあります。常に同園保母より第一線將兵の活躍振り等を聞き、又理解ある父母の家庭教育等により、子供心にも献金を思ひつき、父母に内密で日常の小使錢を貯へ、一圓五十錢に達したので本年一月八日宇久井村巡查駐在所を訪れ、「兵隊さんに何か買つて送つて下さい」と差出し、此の幼い子供の健氣な献金は一般部民を感動せしめ

— 優 し き 赤 誠 —

賞讃の的となつて居る。

芽ばゆる赤心

和歌山市西瀬小二里五八七金福壽君(五)は子供心にも皇軍將兵さんの勞苦を思ひ小さな胸に湧き上る愛國心から親から貰ふ一錢二錢を貯へ、貳圓五拾錢を本會和歌山支會補導員李の家南次郎に寄託慰問金として醸出せり。

少年の血書

和歌山市中ノ島神田町戸主星順伊氏孫金奉守君(一六)戰時下航空日本への憧がれから曩に陸軍航空學校に於て募集の入學志願募集に對し「半島人と雖ども志願し得る」事を知り昭和十五年九月八日自己の指を切つて血書の志願書(志願書及履歷書等一切)を塵め和歌山聯隊區司令部に提出高橋聯隊區司令官を感激せしめたが、年齢の都合にて目的を達することを得なかつたが、半島少年の愛國心に燃へる此の忠誠は一般に大きな感動を與へ本人の將來を大いに囑望され居る。

半島大和撫子の活動

白衣の勇士に感謝の念を捧げ皆んなで御慰め致しませうと和歌山支會婦人部員約百名が去る三月二十六日和歌山〇〇〇〇陸軍病院を訪れ「私等で出来る事で御役に立て、頂きたいと」勇士に心から慰問を爲し、終日縦の縞ひ洗濯の奉仕等を爲し病院當局を初め白衣の勇士一同に感激を與へた。

少年協和の話

愛知縣協和會熱田支部内の熱田區池田町第七組は戸數が三十二、其の内には半島人の家族が十五戸あります。豫てから互に内鮮協和のために努力せられ大變よい成果を收め圓滿なる進展を遂げつゝありました。同町内では古くから祭禮の催物として少年の獅子舞を行ひ各戸を廻り歩いて篤志家より金品の寄贈を受け集つたお金は少年たちが適當に分配してお菓子や玩具や煙火などを買ひお祭の慰安とすると云ふ習慣がありました。

李洙萬君(一〇)は草薙尋常小學校の四年生で第七組の獅子舞の一人でした。昨年十月十七日は恒例の祭りに當り第七組少年二十一名(半島人少年十一名)は共に獅子舞をして寄附金三圓が集つた。少年たちは何時も學校で先生がおつしやる様に日本は今非常時であつたたとへ少しのお金でも無駄に使ふことはよくないことであると云

ふので相談の結果、国防献金にしようときまり一番年上への李洙萬君が代表として同町草薙巡査派出所を訪れ、勤務中の光井巡査に、

「此のお金は今日獅子舞をして皆さんから戴いたのですがお國のために使つて下さい」と差出した。

同巡査は少年等のこの純情に深く感激し直ちに署長に報告し即時献納の手續きを取り少年たちの眞心を兵隊さんに取持つことになつた。

遺家族を守る婦人

舞鶴市字公文名在住の李冀夏さん並に舞鶴市字引土在住中林まつさんの兩名は、何れも生活豊かならざる者なるが、隣人の杉米次郎氏（假名、以下何れも假名）應召するに及び軍事扶助其の他の救助を受けたるも、同人の實弟板男氏（當時三十六年）が肺患が重り療養を要するに至つたのみならず、米次郎氏の妻女も事情により轉住を餘儀なくされたので、兩名相圖りて、同月末杉米次郎氏の一家を李冀夏さんの二階に移し、物心兩方面より何くれとなく眞心こめて病者の看護並に食事其の他汚物の洗濯掃除に至る迄、日夜兩名交替にて付添ひ、眞の肉親も及ばざる扶養と、看護に努めたが、自家に引取つてより三ヶ月後の八月三日遂に板男君は病勢昂じ、李冀夏さんの手をしかと握り、人の情を感謝しつゝ息を引きとつたので、兩名は涙ながらに遺家族を助け、葬儀に至る迄

盡力した。本人等の行は嘗に銃後の善行としてのみでなく、内鮮協和上寔に奇特の行爲として世人の絶讃を受けたが宜なるかな去る紀元の佳節に當り、京都府知事よりその善行を表彰の榮を受くることゝなつた。

勤、勞、慰、問

東京府協和會龜戸支會女子青年二十三名は、昨年十二月十五日の八時半龜戸驛集合、〇〇〇陸軍病院に向つて出發、市川驛に下車すると隊伍を組み、市中を行進し陸軍病院に至り小憩の後慰問係の案内にて傷病兵士を慰問し、生花を贈呈した後甲乙二班に別れ、甲班に病院内の酒保係員の指揮により、販賣品の手傳ひをして、兵隊さん達を喜ばせ、乙班は洗濯場に於て衣服の破損等のつくるひを手傳て、午後は娛樂場に於て一同持參の晝食に益々元氣をつけ、午後一時再び引續き手傳ひをして午後三時十分傷病兵士の盛なる見送りのうちに病院を辭し、午前のコースを逆行進し、市川驛より龜戸驛に至り驛前に於て無事解散した。

415
195

昭和十六年五月一日印刷
昭和十六年五月三日發行
統後養院第一編(協和叢書第七輯)
定價送料共二十五錢

編輯兼
發行人
武田雄

印刷者
川口芳太郎

印刷所
川口印刷所

東京市豊町區大手町一ノ七
厚生會社會局内
電話三田(45)二一一二番

發行所
財團
中央協和會

東京市豊町區大手町一ノ七
厚生會社會局内
電話九ノ内(23)二〇一九番
振替口座東京一四四、四六〇番

終

